

令和 6 年度
知床国立公園における海鳥の分布
調査等業務



図 - 1) -ウミウの集団営巣地

2025 年 3 月
特定非営利活動法人 バードリサーチ

目次

1. 業務概要	(2 p)
1-1. 目的	(2 p)
1-2. 業務内容	(2 p～3 p)
2. 業務結果	(4 p)
2-1. 羅臼側における海鳥の分布調査	(4 p)
2-1-1. 陸上からの海鳥分布調査	
<調査範囲>	(4 p)
<調査方法>	(4p)
羅臼側陸上からの海鳥調査時の気象条件	(5 p)
<調査結果および考察>	(p)
1) 各区域と調査日の結果考察	(6 p～21 p)
2) 各鳥種についての各論	(22 p～33 p)
2-1-2. 海上からの海鳥分布調査	(34 p～38 p)
<調査範囲>	(34 p)
<調査方法>	(35 p)
<調査結果および考察>	(36p)
1) 各区域と調査日の結果考察	. (36 p)
2-1-3. まとめ	(38 p)
観光船からの補足調査	(37 p～38 p)
3. ケイマフリ生息状況調査	(39 p～p)
3-1. ケイマフリ海上分布	(39 p～p)
<調査方法>	(39 p)
<調査結果>	(40p～41 p)
3-2. ケイマフリ繁殖状況調査	(42 p～48 p)
<調査方法>	(42 p)
<調査結果>	(43 p～45 p)
3-3. ケイマフリ餌資源調査	(46p～47 p)
3-4. ケイマフリ生息状況についての考察	(48 p)
4. 知床半島ウトロ地域における海鳥繁殖のオジロワシ生息調査	(49 p～51p)
<調査目的>	(49 p)
<調査方法>	(49 p～50p)
<調査結果>	(50p)
<考察>	(50p)
5 知床半島における海鳥の営巣状況	(51 p～62 p)
調査結果と各海鳥の営巣状況と考察	(52p～62 p)
6 知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループの資料案の作成	(63p～69p)

1. 業務概要

1-1. 目的

知床国立公園の海域は、北半球で最も低緯度に位置する季節氷域であり、流水の影響を大きく受けた特異な生態系の生産性が見られるとともに、海獣類のトドやアザラシ・鯨類のシャチやマッコウクジラなど多様な海棲哺乳類、南極や北極をはじめ北から南から飛来する海鳥類にとって世界的に重要な地域である。

近年、地球温暖化等による海水温の変化による海棲生物の分布や生息が急激に変化していく事が危惧されている。このような生態系の変化を指標する上で、海鳥にとって地球規模でグローバルに移動する海鳥の中継海域である羅臼海域は、その動向を監視するモニタリング海域としても重要であると考えられる。

一方、知床半島沿岸の海域においては、漁業や観光利用がなされていることから、海鳥類の保護と利用の両立を図ることが求められており、知床半島に生息する海鳥類の生息数や営巣地分布、営巣数などのモニタリングを行う必要がある。

本業務は、環境省及び北海道で策定する「第4期知床世界自然遺産地域多利用型統合的海域管理計画」に位置付けられたモニタリングの一環として、知床国立公園及び隣接海域において海鳥の生息状況や繁殖状況を調査することを目的とする。

1-2. 業務内容

(1) 羅臼側における海鳥の分布調査

知床国立公園の羅臼海域（知床岬から峯浜町沿岸）における海鳥の分布等を把握するため、①及び②に定める調査等の実施及び調査結果のとりまとめを行う。調査にあたり、環境省担当官と調整のうえ、調査計画を作成すること。調査日は調査の実施に適した日（天候が良い日等）とすること。調査にあたっては、海鳥の営巣・繁殖に影響を与えないように細心の注意を払うこと。調査には別添調査用紙を用いること。調査項目は、次の項目を基本とし、環境省担当官と調整の上決定すること。

- ・ 調査時刻
- ・ 海水温、気温、天候、風向、風速、波高（インターネット等で調査も可）
- ・ 種（雌雄、幼鳥、エクリプスの可否等可能な限り詳細に）
- ・ 希少種（絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく希少鳥獣、環境省及び北海道レッドリストに登録された種等）としての登録区分
- ・ 個体数
- ・ 海鳥を発見した場所、観測した場所
- ・ 海鳥の特徴的な行動等のその他特記事項

① 陸上からの海鳥分布調査

羅臼町内の海域（相泊～峯浜町）及びその沿岸において、海鳥分布調査を4月～3月

の間、計 24 回程度実施すること。

また、調査にあたっては、知床国立公園及びその近隣海域における海鳥の調査経験並びに鳥類の分布等の知識、さらに、海鳥類（ミズナギドリ類やアビ類など）の識別能力を有する調査者（以下、「調査者」という）及び海鳥の調査経験を有する調査補助者（以下、「補助者」という）を配置すること。

なお、積雪や災害により道路が閉鎖された場合など、やむを得ず調査ができない場合は、環境省担当官と協議の上、調査回数を変更することも可とする。

② 海上からの海鳥分布調査

羅臼町内の海域（知床岬～相泊沖）及びその沿岸において、海鳥分布調査を 6 月～7 月の間、月 2 回程度実施すること。①と同一の調査者及び補助者を配置すること。調査地点までは船舶を用いて移動し、船舶上から調査を行うこと。使用する船舶は環境省担当官及び調査者と調整の上、請負者にて手配すること。なお、海上の状況が悪い場合など、やむを得ず調査ができない場合は、環境省担当官と協議の上、調査回数を変更することとする。

③ ケイマフリの生息状況調査

6 月上旬から 8 月中旬までの期間において、洋上からの調査を実施する（週 1 ～ 2 回、合計 10 回程度）。調査区域はウトロ港からエエイシレド岬までとし、海岸から約 1 km の範囲について調査を行う。調査は、小型船舶を利用して 2 ～ 4 ノットの速度で航行し、左右両舷前方の海上及び陸上にて発見したケイマフリの個体数・位置などの情報を記録する。調査ルートについては、ウトロ港からプユニ岬間は直線的に航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間については、往路は約 50m ～ 100m 沖を、復路は約 400m 沖を航行してカウントし、ケイマフリの採食状況を確認した場合は、目視又は写真判定により餌資源を同定し記録する。

ケイマフリの繁殖状況調査

6 月上旬から 8 月中旬までの期間において、洋上からの調査を実施する（週 1 ～ 2 回、合計 10 回程度）。調査区域はプユニ岬からエエイシレド岬までとする。調査は、営巣環境である崖が見通せる海上で停泊し、巣に出入りする親鳥を観察し巣の位置と数を記録する。

④ オジロワシの生息分布状況調査

6 月上旬から 8 月中旬までの期間において、洋上からの調査を実施する（週 1 ～ 2 回、合計 10 回程度）。調査区域はプユニ岬からエエイシレド岬までとする。調査は、（ア）（イ）の調査時に発見したオジロワシについて、成長・亜成鳥・幼鳥（当年生まれの個体）の 3 区分に分け、個体数・位置などの情報を記録する。なお、オジロワシによる海鳥の捕食等の行動が見られた際は、位置や捕食対象種等を特記すること。

1-3. 業務結果

2-1. 羅臼側における海鳥の分布調査

2-1-1. 陸上からの海鳥分布調査

<調査範囲>

羅臼町内の沿岸およびその海域（峯浜沖～相泊沖）。平成 27 年度の調査結果をもとに調査地点を選定した。

地点については、羅臼町内の海域（峯浜沖～相泊沖）を以下の 15 区間に分けて作成した。

①峯浜（駐車帯）、②春日町（春茹古丹橋・消火栓春日 2）、③麻布漁港、④松法漁港、⑤礼文（礼文・羅臼道の駅）、⑥羅臼港、⑦ロウソク岩（材木岩トンネル北出口）、⑧サシルイ、⑨天狗岩、⑩知円別（知円別トンネル北出口・知円別港）、⑪北浜覆道、⑫ルサ（ルサフィールドハウス・知床橋）、⑬昆布浜、⑭セセキ岩、⑮相泊（相泊港）

<調査方法>

図-3～17 中の区域上で安全に駐車でき、また住民の生活の支障にならない場所を観察ポイントとした（図-3～17 の赤丸）。

調査日の設定は、できるだけ天候の良い、観察に適した光線の良い日の午前中を選んで 4 月～翌年 3 月まで月 2 回陸上からの観察を行った。各調査日および調査時の気象条件については、陸上からの海鳥調査時の気象条件（表-1）に示した。

調査には、防振双眼鏡 12 倍と望遠鏡 20 倍～60 倍を利用し、見える範囲に出現したすべての海鳥、海棲哺乳類の種名、個体数を記録した。なお、気象条件等により観察条件は変化した。調査条件のうち海水温など実地で不明であった事項は、日本気象協会のホームページ（https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/shindan/index_sst.html）から引用した。

表-1) 羅臼側陸上からの海鳥調査時の気象条件

日付	天候	波高	海水温(平年比)	気温	風向	風速	種類数	個体数
4月24日	曇り	1.5m	3°C(+1°C)	3.7°C	東南東	1.6m/s	13種(sp.含む)	1594
4月30日	曇り	0.5m	3°C(+1°C)	7.3°C	西	0.8m/s	10種	1613
5月18日	晴れ	1m	6°C(+2°C)	19.3°C	東南東	3.2m/s	7種	1230
5月31日	晴れ	1m	6°C(0°C)	10.4°C	南東	2.1m/s	8種(sp.含む)	12976
6月17日	晴れ	1m	9°C(+1°C)	20.3°C	南南東	2.9m/s	6種(sp.含む)	1404
6月26日	曇り	1m	12°C(+1°C)	12.2°C	北西	4.4m/s	7種(sp.含む)	1531
7月9日	曇り	0.5m	15°C(+2°C)	17.4°C	東南東	2.0m/s	6種	2432
7月17日	晴れ	0.5m	15°C(+2°C)	23.6°C	東南東	2.7m/s	8種(sp.含む)	1340
8月15日	晴れ	1m	18°C(+4°C)	23.7°C	南東	2.6m/s	5種	1297
8月30日	曇り	1m	18°C(+2°C)	21.3°C	東南東	1.8m/s	7種	1302
9月16日	晴れ	1m	18°C(+2°C)	20.4°C	北北西	4.0m/s	6種	2261
9月25日	曇り	1.5m	15°C(+1°C)	16.6°C	東南東	2.7m/s	9種	1245
10月18日	曇り	1.5m	15°C(+1°C)	13.8°C	東	3.3m/s	14種(sp.含む)	2341
10月25日	曇り	1m	15°C(+1°C)	13.9°C	北西	4.4m/s	15種(sp.含む)	1571
11月15日	曇り	1m	9°C(+1°C)	9.5°C	南東	2.5m/s	17種	3054
11月30日	曇り	1m	9°C(+1°C)	2.4°C	北西	2.3m/s	18種(sp.含む)	3256
12月24日	曇り	1.5m	3°C(+1°C)	-0.5°C	北西	3.6m/s	10種	1432
12月29日	曇り	1.5m	3°C(+1°C)	-1.6°C	北西	3.2m/s	11種	1214
1月20日	晴れ	1m	6°C(+1°C)	4.3°C	東	2.8m/s	17種	767
1月29日	曇り	1.5m	海水あり	-0.6°C	西北西	4.9m/s	10種	572
2月7日	曇り	1.5m	海水あり	-0.8°C	南南東	3.0m/s	12種	820
2月26日	晴れ	0.5m	海水あり	-0.3°C	東南東	3.0m/s	6種	660
3月1日	曇り	0.5m	海水あり	6.4°C	東北東	1.8m/s	7種	370
3月5日	曇り	0.5m	海水あり	-4.4°C	東南東	1.7m/s	10種	1198

<調査結果及び考察>

1) 羅臼側各区域と調査日の結果考察

① 峯浜地区



図-1) 峯浜地区調査地点

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 アビ													1												1
2 ハジロカイツブリ															1										1
3 ミミカイツブリ														1											1
4 カンムリカイツブリ															1										1
5 アカエリカイツブリ														3	2				3						8
6 ミズナギドリsp.				1000																					1000
7 ウミウ											2	1		2											5
8 ヒメウ	4	5		1	1						8	1	2	4	1			1				4	3	2	37
9 スズガモ			8	1																					9
10 クロガモ	26														7	4			20					12	69
11 シノリガモ	160	48	98									1		4	1	5	2	4	8	2	1	6	2	4	346
12 ウミアイサ	6	2																	1						9
13 カワアイサ																	2	22							24
14 ユリカモメ												1	1												2
15 オオセグロカモメ	2	24	7	4	4	4	3	22	2	2		5		8	1	4	2	2	2	1	1	4	5	2	111
16 カモメ																12									12
17 ウミネコ		2						2			56			2											62
18 ミツユビカモメ				30												87									117
19 カモメsp.								300					100												400
20 ケイマフリ																		2	1						3
21 ウトウ				167	25	6	328	200																	726
22 ウsp.													6												6
23 コクガン																							11		11
合計	198	81	113	1203	30	10	331	524	2	2	66	9	109	25	14	112	6	31	35	3	2	14	21	20	2961
種類数	5	5	3	6	3	2	2	4	1	1	3	5	4	8	7	5	3	5	6	2	2	3	4	4	23

知床半島の基部になり、根室海峡のなかで最も国後島に近い位置にある。半島から急激に水深が浅くなり海流の流れによっては湧昇流が起これりプランクトンや魚類が集まりやすい海域である。遠浅ということもあり潜水採餌型のクロガモとシノリガモが多く観察された。クロガモやシノリガモの潜水性で底生生物を捕食する。5月31日にはミズナギドリ類

が約 1000 羽確認されたが遠方であるために種類まで識別できなかった。ウトウが 5 月 31 日 167 羽・7 月 9 日 328 羽・7 月 17 日 200 羽が確認された。この種の繁殖期にあたるが知床半島では繁殖例がなく、おそらく国後島や歯舞諸島などで繁殖している個体であると考えられる。3 月 1 日には海上から植別川上空を内陸に飛ぶコクガン 11 羽が観察された。

②春日町地区



図-2) 春日町地区調査地点

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 アカエリカイツブリ	1																								1
2 ヒメウ			1																1						2
3 シロガモ	4																6	10			4				24
4 ユリカモメ												1	34	38	460	69									602
5 セグロカモメ															2	1									3
6 オオセグロカモメ	50	28	35	45	45	11	53	17	64	51	86	158	195	224	197	301	52	153	36	33	42	9	10	4	1899
7 シロカモメ																2		4	6		10				22
8 カモメ													1		14										15
9 ウミネコ									69	70	32	33	37			15									256
10 ワシカモメ															1				1						2
11 ミツユビカモメ															26										26
12 ウトウ								100																	100
合計	55	28	36	45	45	11	53	117	133	121	118	192	267	262	700	388	58	167	44	33	56	9	10	4	2952
種類数	3	1	2	1	1	1	1	2	2	2	2	3	4	2	6	5	2	3	4	1	3	1	1	1	12

春茹古丹橋と消火栓春日2のある海岸の2ヶ所で調査した。春茹古丹川の河口ではカモメ類が水浴や水飲みのために集まっていた。春茹古丹川の河口の観察ポイントでは冬期は積雪のため入れなく12月23日～3月8日まで調査できなかった。2カ所の環境の違う場所で調査をしたため個体数と種類とも多かった。春茹古丹川の河口では、オオセグロカモメが優占種で次にウミネコの個体数が多かった。春茹古丹川の河口の観察ポイントでは冬期は積雪のため入れなく12月24日～3月5日まで調査できなかった。2カ所の環境の違う場所で調査をしたため個体数と種類とも多かった。5月31日には1万羽を超えるミズナギドリ類の大群と約600羽のウトウそしてミツユビカモメ約100羽が観察された。

③八木浜地区



図-3) 八木浜地区調査地点

	鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1	アカエリカイツブリ	1																								1
2	ヒメウ			1																1						2
3	シノリガモ	4																6	10			4				24
4	ユリカモメ												1	34	38	460	69									602
5	セグロカモメ															2	1									3
6	オオセグロカモメ	50	28	35	45	45	11	53	17	64	51	86	158	195	224	197	301	52	153	36	33	42	9	10	4	1899
7	シロカモメ																2		4	6		10				22
8	カモメ													1		14										15
9	ウミネコ									69	70	32	33	37			15									256
10	ワシカモメ																1			1						2
11	ミツユビカモメ															26										26
12	ウトウ								100																	100
	合計	55	28	36	45	45	11	53	117	133	121	118	192	267	262	700	388	58	167	44	33	56	9	10	4	2952
	種類数	3	1	2	1	1	1	1	2	2	2	2	3	4	2	6	5	2	3	4	1	3	1	1	1	12

主に麻布漁港の防波堤の上から観察を行った。1月から3月までは積雪のため堤防上に登れないため麻布漁港内のみでの観察となった。水産加工場に面した砂浜と消波ブロックにオオセグロカモメを中心としたカモメ類が多く集まった。特に砂浜には多くのカモメ類が休息していた。渡りの時期の11月15日には渡途中のユリカモメが460羽確認された。

この地区は、漁港と水産加工場に隣接していることから、漁船からの魚の搬出などの活動にカモメ類の個体数が左右されていた。

④松法地区

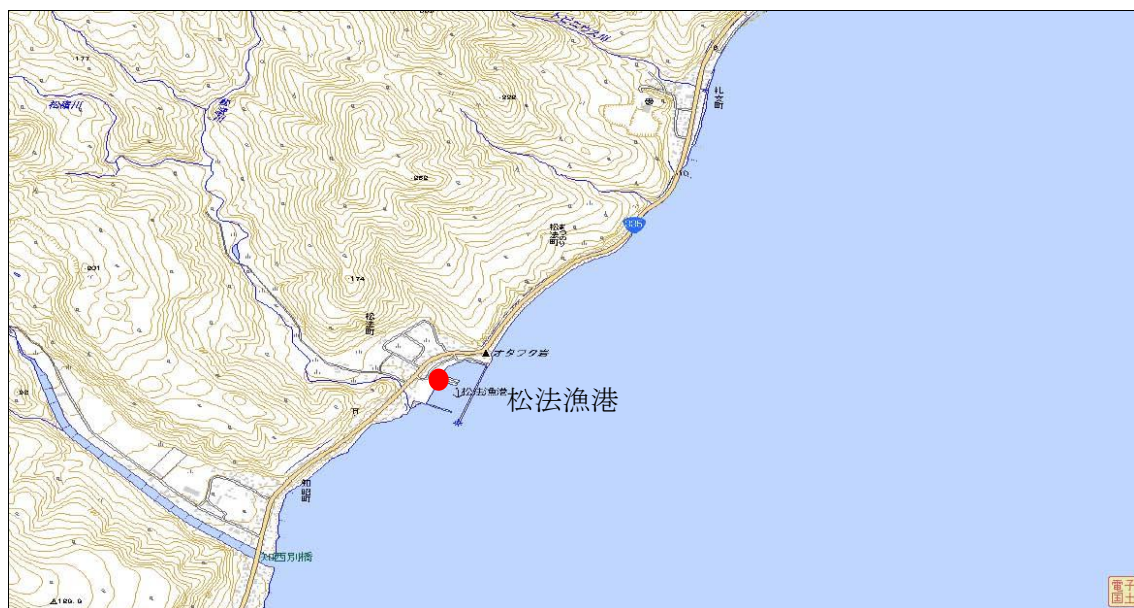


図-4) 松法地区調査地点

表-5) 松法地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 ヒメウ																22	135	78	15		6				256
2 カワウ										1															1
3 ホオジロガモ																	2								2
4 スズガモ																9	8				1				18
5 シノリガモ																	122	8			6				136
6 ウミアイサ																					2			1	3
7 カワアイサ																						1			1
8 ユリカモメ		2																							2
9 セグロカモメ																1									1
10 オオセグロカモメ	86	88	45	52	115	76	21	13	36	31	161	25	136	124	68	266	229	278	50	51	36	29	35	8	2059
11 シロカモメ																6	1	4							11
12 ウミネコ	6	2					1		4		6		26		6										51
13 フシカモメ														2			2	1	3	1		1		1	11
14 オジロワシ																			2						2
合計	92	92	45	52	115	76	22	13	40	32	167	25	162	126	74	304	499	369	70	52	51	31	36	9	2554
種類数	2	3	1	1	1	1	2	1	2	2	2	1	2	2	2	5	7	5	4	2	5	3	2	2	14

松法漁港での観察となった。オオセグロカモメが優先種で、漁港に入港する漁船からこぼれる魚を狙って集まることが多く、船着き場で休んでいる個体も多く見られた。ヒメウは冬期間に漁港の堤防にへばり付くように止まっているものが観察された。最大個体数は12月24日の135羽であった。ヒメウは警戒心が強く防波堤にとまる個体は船舶の航行に左右されることが多かった。カモ類も港内に入る個体が多く、シノリガモは12月24日に122羽観察された。

⑤礼文町



図-5) 礼文町区域調査地点

表-6) 礼文町地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 ウミウ	1									1	5	6	5												18
2 ヒメウ		2	2								6	4	2	1	84	22	40							3	166
3 カワウ										1															1
4 ヒドリガモ	2																								2
5 ホオジロガモ																					2			1	3
6 シノリガモ	15	35											6	2	16	45	10	38	6	14	20	28	5	112	352
7 ウミアイサ	4	91														23				38	6	16		8	186
8 カワアイサ															6		6			1	6				19
9 ユリカモメ	148	86											80	21		256		88	6		2			1	688
10 セグロカモメ														1	1										2
11 オオセグロカモメ	90	57	172	62	64	178	86	99	115	100	206	269	67	285	156	194	591	165	133	61	88	40	59	254	3591
12 シロカモメ															3		1								4
13 カモメ													1		4	2		1							8
14 ウミネコ			1			4	4	2	46	164	145	54	351	171	811	253			1						2007
15 ワシカモメ															1	1			1	1		1			5
16 ミシユビカモメ						4		2					2	4	57	2									71
17 ウトウ					6	3	454																		463
18 アオサギ												1	1												2
合計	260	271	175	62	70	189	544	103	161	266	362	334	515	485	1139	798	648	292	147	115	124	85	64	379	7588
種類数	6	5	3	1	2	4	3	3	2	4	4	5	9	7	10	9	5	4	5	5	6	4	2	6	18

礼文町の消波ブロックの海岸と羅臼川河口から羅臼漁港の南側の防波堤までの地区で調査を行った。礼文町の消波ブロックではカモメ類とヒメウ・ウミウが休んでおり、道の駅の前浜沖ではシノリガモ・カワアイサ・ウミアイサ・カワアイサなどの潜水採餌カモが観察された。そして、羅臼川は流量も多くカモメ類が水を飲んだり水浴するには適しておりオオセグロカモメを中心に多くのカモメ類が集まった。繁殖期の終わった頃から冬になる前にウミネコが多く見られた。ユリカモメが秋から冬の渡りの時期に多く 11 月 30 日には 256 羽が観察された。

図-6) 羅臼漁港地区調査地点

表-7) 羅臼漁港地区で觀察された海鳥

	鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1	ウミウ	6	1	2	4		3	20	1	2		4														43
2	ヒメウ		22	27	9	49	3	12				1				6						1	7	4		141
3	キンクロハジロ																							10	12	22
4	スズガモ																		18		12	20				50
5	シロガモ	4																72	26		33	16				151
6	ウミアイサ		20																			17		10		47
7	ユリカモメ	24	6													298						2				330
8	セグロカモメ													2		2	4									8
9	オオセグロカモメ	184	343	350	602	668	641	497	291	408	212	574	334	293	145	85	192	18	24	88	62	129	220		200	6560
10	シロカモメ	1														4	3					2				10
11	カモメ																120									120
12	ウミネコ		3				16	6		12	18	17	1	59	4	3										139
13	ワシカモメ													1							1	1	1			4
14	ミツユビカモメ													21												21
15	ウトウ		11				11	56																		78
16	アオサギ										4	4	5													13
	合計	219	406	379	615	717	674	591	292	422	234	600	340	376	149	398	319	90	68	88	108	188	228	24	212	7737
	種類数	5	7	3	3	2	5	5	2	3	3	5	3	5	2	6	4	2	3	1	4	8	3	3	2	16

羅臼漁港内と羅臼漁港屋上の見晴らしの良い場所で観察を行った。漁港屋上は 1 月以降除雪されておらず漁港から沖側の観察できなかった。羅臼漁港防波堤で繁殖するオオセグロカモメの繁殖状況が観察された。冬期間には、シノリガモ・スズガモ・キンクロハジロなどの潜水ガモが確認された。

⑦ロウソク岩地区



図-7) ロウソク岩地区調査地点

表-8) ロウソク岩地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 ハジロカイツブリ																			1						1
2 ミズナギドリsp.					4																				4
3 ウミウ			2					2				1													5
4 ヒメウ							2	2								2		6	2	2					16
5 シノリガモ		20											1		8	8	4	2	4		4	14	14	26	105
6 ウミアイサ		2																							2
7 ユリカモメ	10	1																							11
8 オオセグロカモメ	12	6	39	8	24	24	51	22	8	9	1	2		2	4		2	4	34	5	16	4	14	48	339
9 カモメ															4	2									6
10 ウミネコ				1					56	11	18	2	42												130
11 ワシカモメ																							1		1
12 ミツユビカモメ															1										1
13 ウミガラス																			1						1
14 ケイマフリ																			2						2
15 ウトウ				21	9	3	104	2																	139
合計	22	29	41	30	37	27	157	28	64	20	19	5	43	2	17	12	6	12	43	8	20	18	29	74	763
種類数	2	4	2	3	3	2	3	4	2	2	2	3	2	1	4	3	2	3	5	3	2	2	3	2	15

調査地点の足元にある岩礁にシノリガモが繁殖期以外に見られることが多かった。ロウソク岩周辺ではオオセグロカモメが営巣していた。1月20日にはケイマフリ2羽が確認された。

⑧サシルイ地区

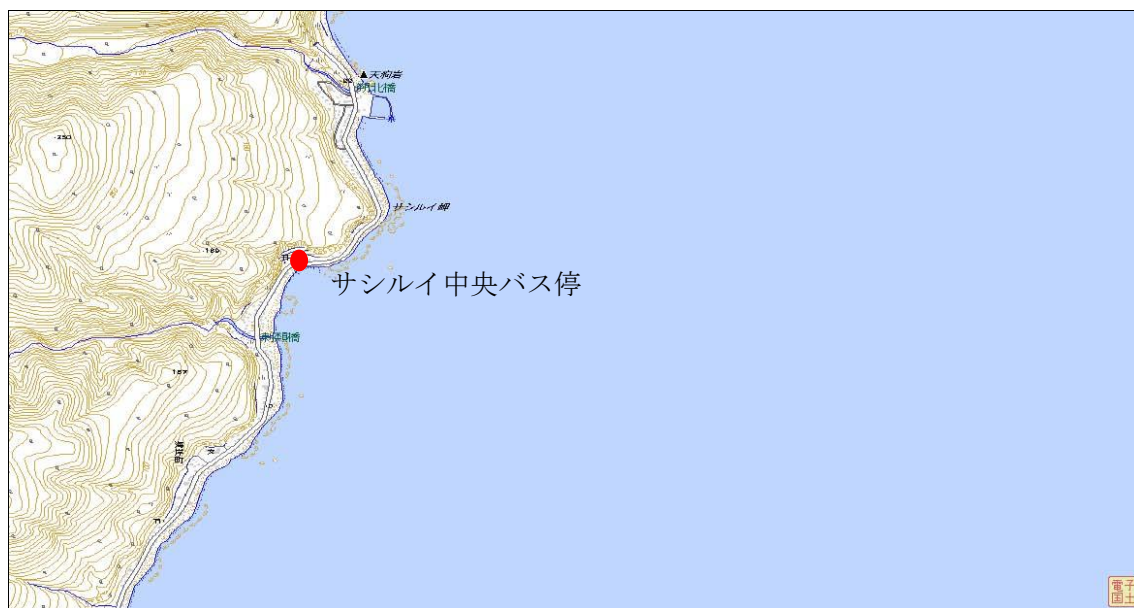


図-8) サシルイ地区調査地点

表-9) サシルイ地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 ウミウ											2														2
2 ヒメウ													1						2				2		5
3 シノリガモ	4	2											6	4	17				28	12	10	10	94		187
4 ウミアイサ													2												2
5 カワアイサ																6		2						2	10
6 オオセグロカモメ	6	8	3	2	7	6	3	9	9	7	10		2	7	2	23		2	4	5	6	8		128	257
7 ウミネコ							6		4		32	6	2	6											56
8 ワシカモメ																								1	1
9 ミツユビカモメ																				1					1
10 ウトウ						3	66	16																	85
合計	10	10	3	2	7	9	75	25	13	7	44	6	4	22	6	46	0	4	4	35	19	18	12	225	606
種類数	2	2	1	1	1	2	3	2	2	1	3	1	2	5	2	3	0	2	1	3	3	2	2	4	10

サシルイ中央バス停付近にある建築現場事務所周辺で観察した。湾内という地形のためか海鳥の種類数共に少ない地点である。シノリガモが3月5日に94羽が確認された。

⑨天狗岩地区

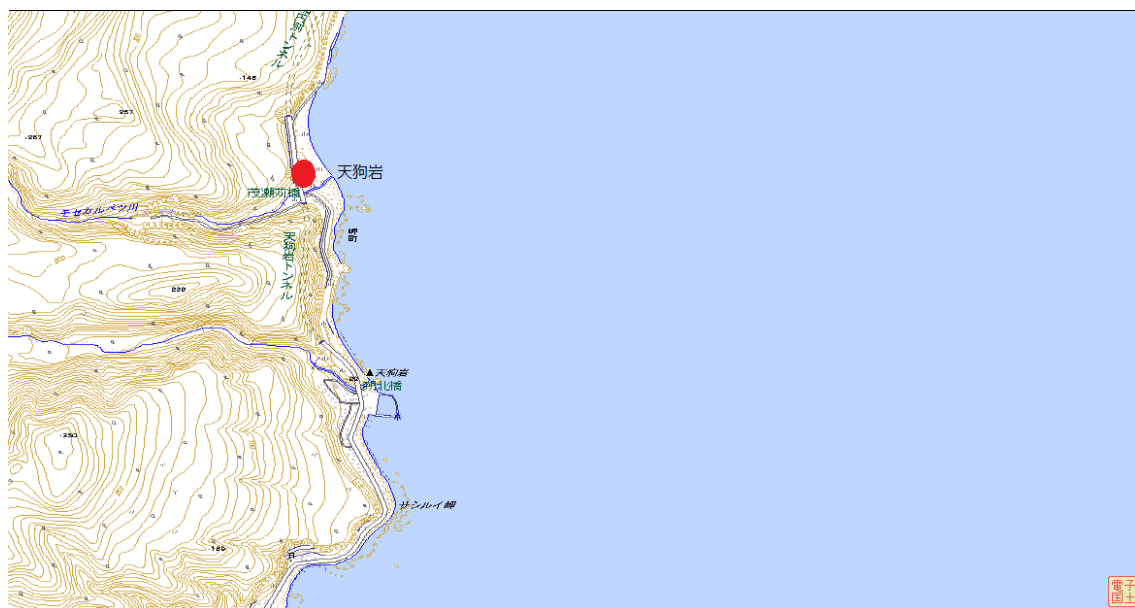


図-9) 天狗岩地区調査地点

表-10) 天狗岩地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 アカエリカイツブリ	1																								1
2 ウミウ								4	2				1												7
3 ヒメウ		4									3				2										9
4 マガモ																			2						2
5 シノリガモ		4										1				22					6	12	3	8	56
6 ウミアイサ																		1	2	1					4
7 ユリカモメ	6	2	2										16												26
8 セグロカモメ													1		5				1						7
9 オオセグロカモメ	10	9	29	12	16	20	14	25	4	5	55	64	49	35	41	26	2	2	122	49	59	80	30	58	816
10 カモメ															60			41							101
11 ウミネコ			2	1			15	2		14	49	30	139	22	16										290
12 ワシカモメ															2				1						3
13 ミツユビカモメ										1			130	5	103										239
14 ウトウ						7	26																		33
合計	17	19	33	13	16	27	55	31	6	20	107	95	336	62	229	48	2	2	167	52	66	92	33	66	1594
種類数	3	4	3	2	1	2	3	3	2	3	3	3	6	3	7	2	1	1	5	3	3	2	2	2	14

天狗岩の駐車帯から沖合を観察を行ったが、オカバケ川河口に集まるカモメ類やカモ類も調査した。オカバケ河口には、オオセグロカモメを中心としたカモメ類が飲水と水浴のために集まっていた。天狗岩では休息するカモメ類が観察された。10月18日にはウミネコ139羽とミツユビカモメ130羽が確認された。また、釣り人が河口付近に入るとカモメ類はほとんどいなくなることもあった。

⑩知円別地点



図-10) 知円別地区調査地点

表-11) 知円別地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 ハムsp.					2																				2
2 アカエリカツブリ																			1						1
3 ウミウ	15								3																18
4 ヒメウ		14									3							6	5			11	6	7	52
5 カワウ																									0
6 シノリガモ															2	6	16	8	2	34	24	6	2	55	155
7 ウミアイサ																			8						8
8 カワアイサ																								1	1
9 オオセグロカモメ	54	125	120	206	154	172	165	91	91	153	12	49	19		81	34	85	234	108	80	114	70	61	61	2339
10 シロカモメ															1	2			1						4
11 カモメ																			1						1
12 ウミネコ							4		22	22	16		29		66										159
13 ワシカモメ																		2			1				3
14 ウトウ						2																			2
15 アオサギ									1																1
合計	69	139	120	206	156	174	169	91	117	175	31	49	48	0	150	42	101	250	111	129	139	87	69	124	2746
種類数	2	2	1	1	2	2	2	1	4	2	3	1	2	0	4	3	2	4	3	6	3	3	3	4	14

知円別漁港トンネル北出口と知円別漁港で観察した。知円別漁港の外側に離岸堤がありオオセグロカモメの営巣地となっている。しかし、7月17日の調査では雛が2羽しか残っていなかった。冬期間に知円別漁港内にシノリガモが見られた。

⑪ 岩見橋地区



図-11) 岩見橋地区調査地点

表-12) 岩見橋地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 ウミウ								1																	1
2 ヒメウ																			1					1	2
3 シノリガモ	2														1			6				4		2	15
4 ユリカモメ	12																								12
5 オオセグロカモメ				2	2	1	6	2		4	1	1	4	2				2	4	1	4	2			38
6 ウミネコ								2	23	2	4	1	18												50
7 ミツユビカモメ													6												6
合計	14	0	0	2	2	1	6	5	23	6	5	2	28	2	1	0	0	8	4	2	8	2	0	3	124
種類数	2	0	0	1	1	1	1	3	1	2	2	2	3	1	1	0	0	2	1	2	2	1	0	2	7

石見橋の左岸で観察を行った。この地点は海鳥の種類も数も少なかった。オオセグロカモメとウミネコが見られた。

⑫ルサ地区



図-12) ルサ地区調査地点

表-13) ルサ地区で観察された海鳥

	鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計	
1	アカエリカイツブリ															2											2
2	ミズナギドリsp.						8																				8
3	ウミウ								8				1		4												13
4	ヒメウ																		1		1	6	1				9
5	シノリガモ		6	2												4	6	1		6	12	20	2	20			79
6	ウミアイサ		28	13											1												42
7	カワアイサ																			2	2				1		5
8	ユリカモメ		362																								362
9	オオセグロカモメ			4	4		5	15	2	6	11	1	16		8	3			1		2	14			6	54	152
10	カモメ																		1								1
11	ウミネコ								7		4	4	2	12	2												31
12	フシカモメ																					1					1
13	ミツユビカモメ										1				1												2
14	ウトウ					2	42																				44
	合計		396	19	4	0	7	65	2	21	11	6	20	3	21	10	6	6	1	3	8	17	41	3	26	55	751
	種類数		3	3	1	0	2	3	1	3	1	3	2	2	3	4	2	1	1	3	2	4	4	2	2	2	14

4月24日に渡りで北上する途中のユリカモメが362羽を確認した。ウトウが繁殖期の6月26日に42羽を確認した。ルサ川河口を中心にシノリガモが冬期間に確認された。

⑬ 昆布浜地区

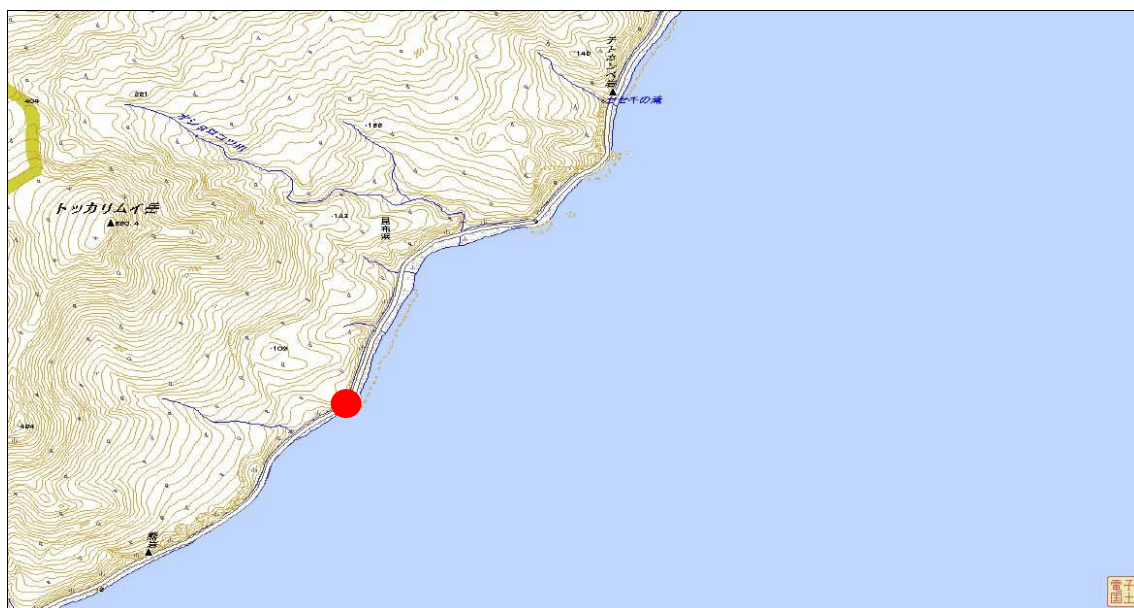


図-15) 昆布浜地区調査地点

表-14) 昆布浜地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 アビ							1																		1
2 ミズナギドリsp.						8																			8
3 ウミウ			5					2				1													8
4 ヒメウ		6																			7	1			14
5 シノリガモ	4																	4			20	6			34
6 カワアイサ																15									15
7 ユリカモメ	2																								2
8 オオセグロカモメ	2		173	4	1		3					1	2	1	4				1		2	1	1		196
9 ウミネコ									6	44	8	1	8		5										72
10 ミツユビカモメ															13										13
合計	8	6	178	4	1	8	4	2	6	44	8	3	10	1	22	15	0	0	5	0	29	8	1	0	363
種類数	3	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	3	2	1	3	1	0	0	2	0	3	3	1	0	10

昆布浜の道路沿いで調査を行った。5月18日にオオセグロカモメ 173羽が群れで沖合にいとるを観察された。特に、種類と個体数ともに少ない地区であった。

⑭セセキ地区



図-14) セセキ岩調査地点

表-15) セセキ地区で観察された海鳥

鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1 ミズナギドリsp.					5	108								30											143
2 クロアシアホウドリ														2											2
3 ウミウ			1				8	8			2		1	2											22
4 ヒメウ	2	6											1			17			1		7			4	38
5 シノリガモ	15	17												1	4	8	2		13		18	20	8	10	116
6 ウミアイサ																				1					1
7 カワアイサ																6									6
8 セグロカモメ												1			1										2
9 オオセグロカモメ		19	2	9	12	35	4	16	26	42	17	9		10	158		1				32	27	4		423
10 ウミネコ						26	12	11	84	33	380	16	37	2											601
11 ワシカモメ															1										1
12 カモメsp.																100									100
13 ケイマフリ																1									1
14 ウトウ					13	12	20																		45
合計	17	42	3	9	30	181	44	35	110	75	399	26	39	45	166	132	3	0	14	0	58	47	12	14	1501
種類数	2	3	2	1	3	4	4	3	2	2	3	3	3	5	5	5	2	0	2	0	4	2	2	2	14

セセキ温泉駐車場と相泊温泉駐車場の2カ所から観察した。9月16日にウミネコが沖合で約380羽が群れていた。10月25日には波の高い沖合にクロアシアホウドリ2羽が飛行しているのを観察した。この種を陸から観察したのは今回が初めてだった。

⑮相泊地区



図-15) 相泊地区調査地点

表-16) 相泊地区で観察された海鳥

	鳥種\月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
1	アカエリカイツブリ															1										1
2	ミズナギドリsp.					18									20											38
3	クロアシアホウドリ														3											3
4	ウミウ		2		2				5	1					2											12
5	ヒメウ			25													4			3		1		6	3	42
6	シノリガモ			4							1			36	30	10	4	4		1		3				93
7	カワアイサ																4									4
8	オオセグロカモメ		29	48		1	38	19	71	31	18	61	145	21	16	222	4					7		13	4	748
9	ウミネコ						4		7	107	55	30	43	102	28											376
10	カモメsp.																500									500
11	ウトウ					1	4																			5
12	アオサギ											1														1
	合計	31	77	2	1	57	27	71	43	126	117	176	64	154	305	15	512	4	0	4	0	11	0	19	7	1823
	種類数	2	3	1	1	3	3	1	3	3	3	3	2	3	6	3	4	1	0	2	0	3	0	2	2	12

11月25日に沖合にカモメ類の群れ約500羽が観察された。10月25日には沖合にミズナギドリ類約20羽の群れの中にクロアシアホウドリ3羽を確認した。シノリガモはアイドマリ川の河口に見られることが多く、オオセグロカモメとウミネコは相泊漁港の堤防の上に多く観察された。

2) 各鳥種についての各論

今回は、希少鳥類を中心に注目鳥を選んで各論を述べる

表-17) 2023 年ミズナギドリ類の調査日別個体数の推移 (2023 年 4 月～2024 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
ミズナギドリ類の個体数	0	0	0	11000	27	124	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11201

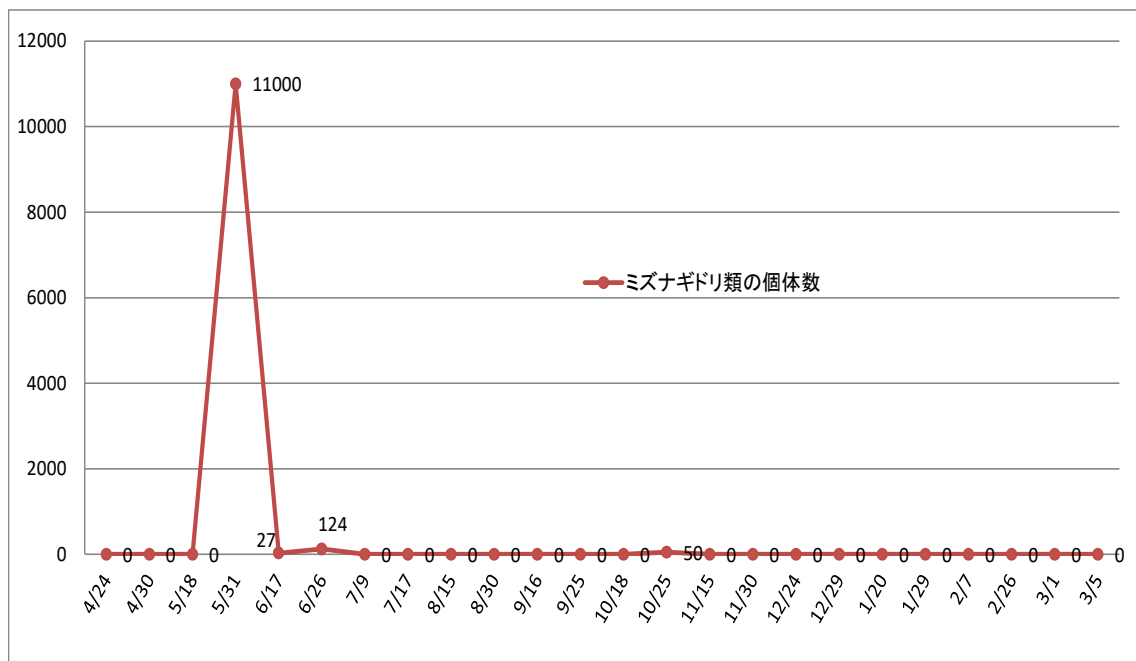


図-16) ミズナギドリ類の調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

陸上からの観察では、ハシボソミズナギドリとハイイロミズナギドリそしてフルマカモメも識別が難しいのでミズナギドリ類とした。

ハシボソミズナギドリとハイイロミズナギドリは特に識別が難しく両種ともオーストラリアとニュージーランドの南極海に面した島嶼部で繁殖する。ハシボソミズナギドリはオキアミなどの動物プランクトンを主に捕食し、ハイイロミズナギドリは魚食性が強いいため知床半島周辺に飛来する時期が若干違うと考えられる。

フルマカモメは、北千島以北やサハリン北部で繁殖する。カモメと名付けられているがミズナギドリの仲間である。ミズナギドリの仲間でありながら潜水はできなく主に水面で採餌する。浮遊する魚や他の海鳥のこぼした餌を食べることもありハシボソミズナギドリの群れに追従して出現することもある。

5 月 31 日に春日町の沖合で約 1 万羽以上の大群が観察された。プランクトンや小魚が発生していたものと考えられる。

・ウミウ

表-18) 2024 年ウミウの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
ウミウの個体数	24	1	12	4	0	3	28	31	8	2	15	10	7	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155

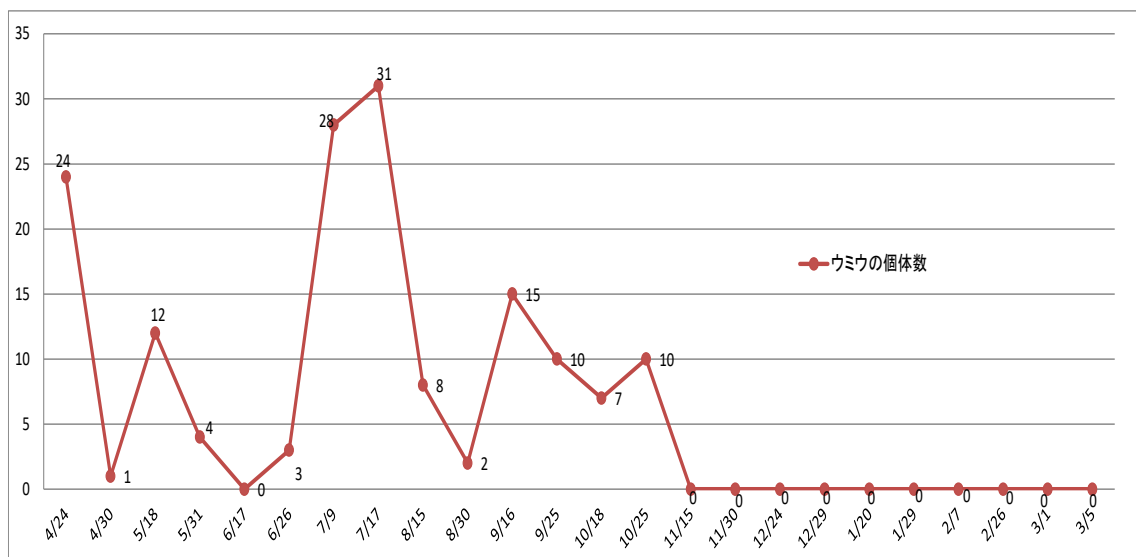


図-17) 2024 年ウミウの調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

知床半島で繁殖しているが近年営巣数が減少している。繁殖期後半から個体数が増え繁殖期が終了した 7 月 17 日に 31 羽を確認した。冬期間は観察されなかった。

・ヒメウ

表-19) 2023 年ヒメウの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
ヒメウの個体数	14	110	31	14	50	3	14	2	0	0	21	6	7	7	93	68	175	94	23	11	28	25	27	20	843

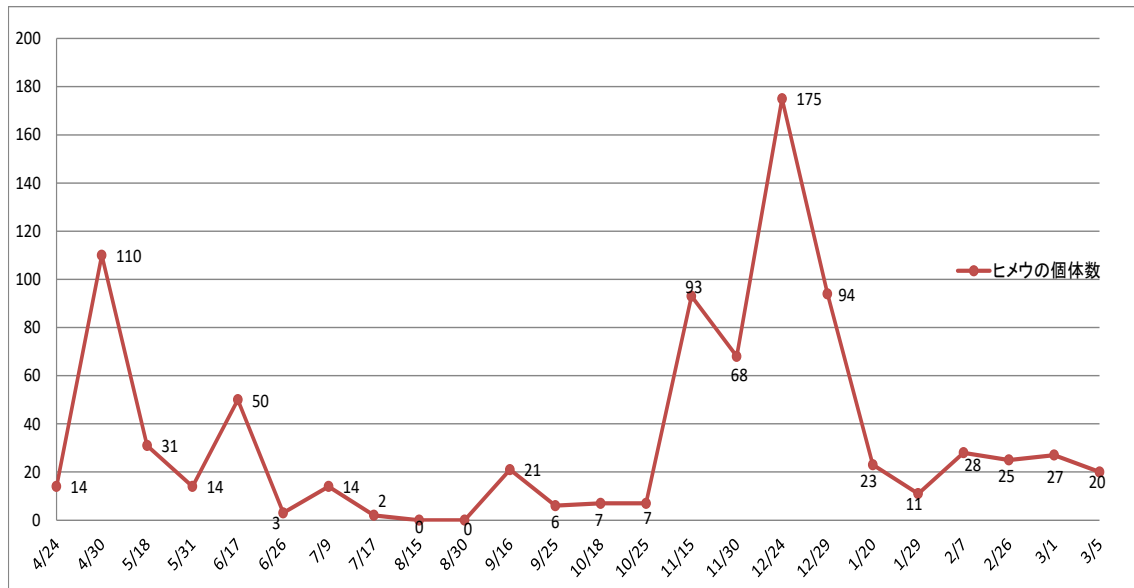


図-18) 2024 年ヒメウの調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

知床半島では繁殖はしておらず、近隣では千島列島で繁殖している。12 月 24 日に 175 羽が確認されている。渡り途中の個体が多く飛来したものと考えられる。繁殖期にも少数が観察されるが繁殖に参加しない個体が飛来しているものと考えられる。松法漁港の堤防の岸壁にへばりつくように止まっている個体も多く見られた。

環境省では、国内では天売島で少数繁殖するのみであることから、絶滅危惧ⅠＢ類に指定されているが、羅臼海域では比較的多くの個体が観察され、この海域はヒメウにとって重要な生息地であると考えられる。

・シノリガモ

表-20) 2024 年シノリガモの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
シノリガモの個体数	228	138	98	0	0	0	0	0	0	1	1	2	43	45	60	130	243	102	48	131	160	117	64	315	1926

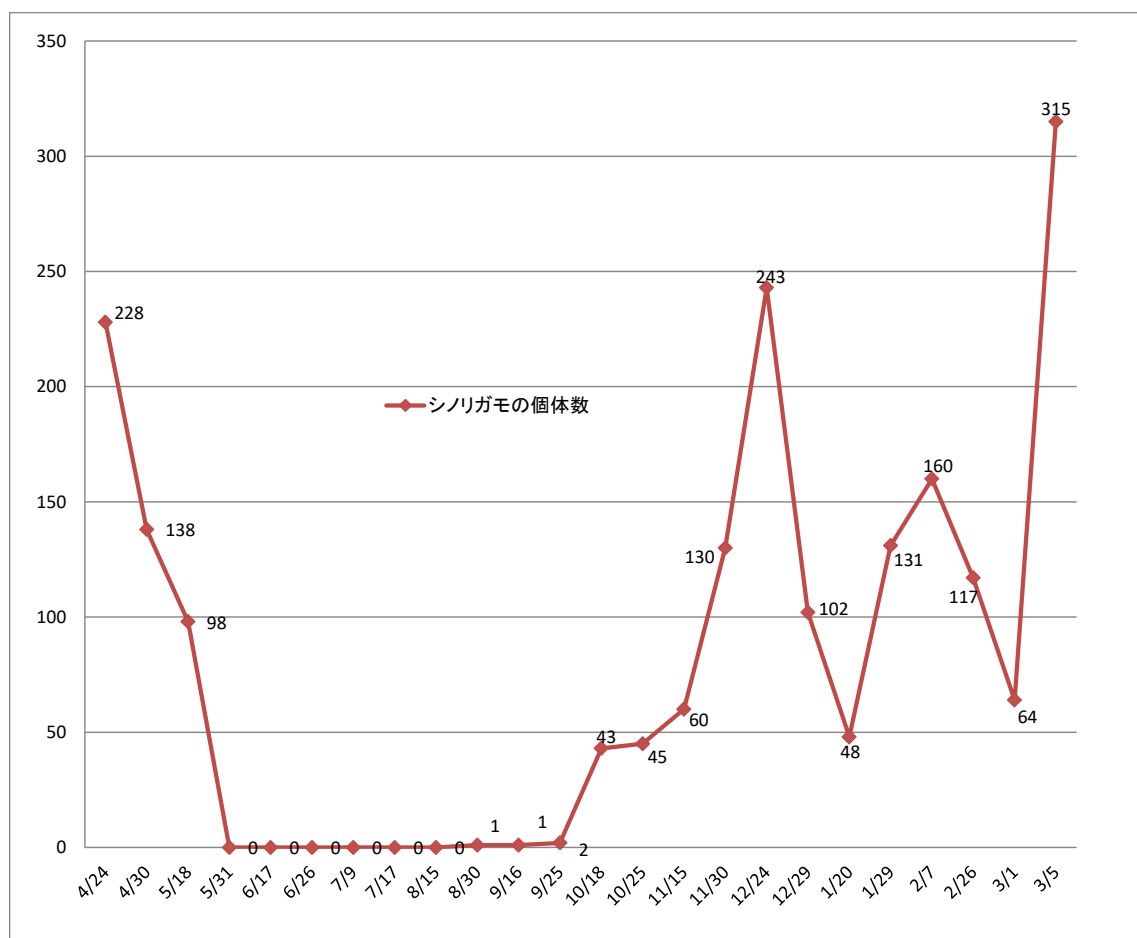


図-19) 2024 年シノリガモの調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

東北以北で繁殖する個体は環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。繁殖は森林の溪谷で行い繁殖期以外は海域で生息するという特異な生態を持っている。知床半島においても繁殖が確認されている。繁殖期を除く秋から春までに観察される。3月5日には315羽を確認した。最高羽数が観察された3月5日は、沖合に流水があり沿岸には薄氷が張っている海域が多く所々に開水面があり、そこにシノリガモが集結していた。知床半島でも少数が繁殖していると考えられることから、知床の森と川と海をつなぐ生き物として今後の知床の環境保護のシンボルともなりうる種である。

・ウミアイサ

表-21) 2024 年ウミアイサの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
ウミアイサの個体数	48	158	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7	23	8	2	6	48	27	16	11	8	366

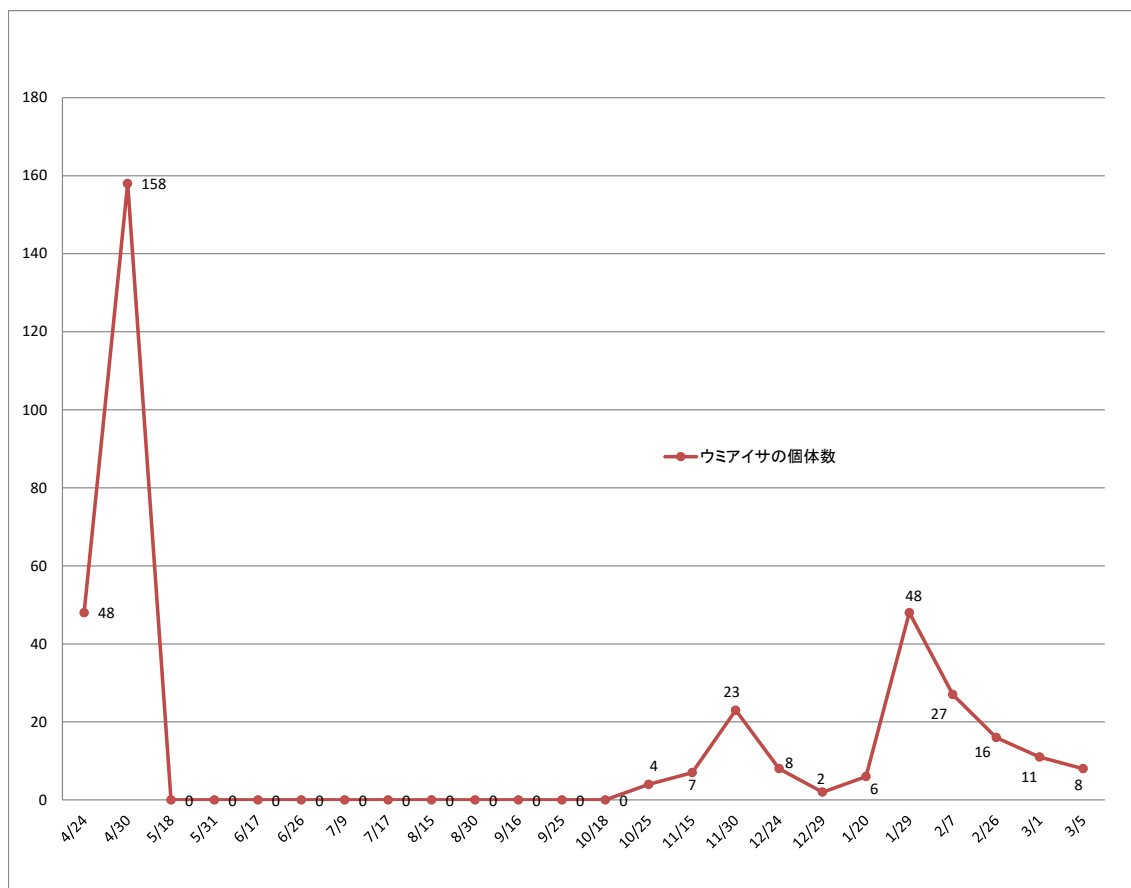


図-20) 2024 年ウミアイサの調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

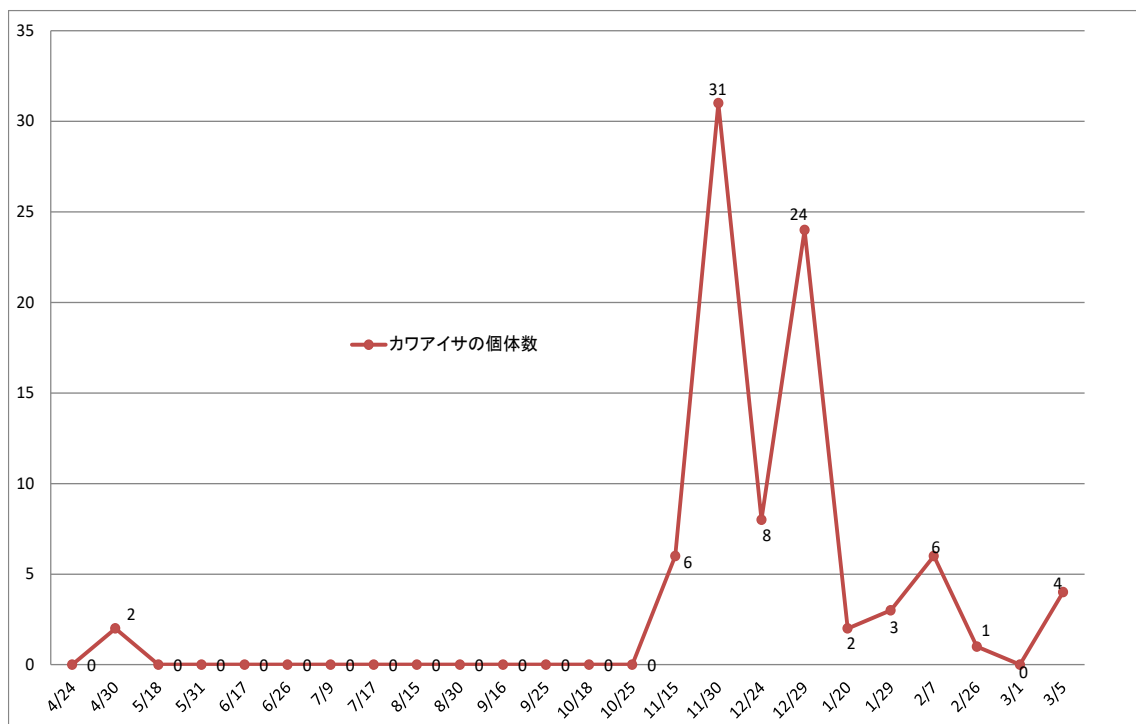
ロシア沿海地域からサハリンそしてカムチャツカ以北で繁殖する。10 月以降から冬鳥として飛来する。魚食性のカモである。沿岸にすることが多く港内に入ることもある。

最高個体数は、4 月 30 日の 158 羽で、礼文町の沖で 91 羽が確認された。繁殖地に向かう渡り途中の個体が多く出現したと考えられる。

・カワアイサ

表-22) 2024 年カワアイサの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
カワアイサの個体数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	31	8	24	2	3	6	1	0	4	87



この種は、知床半島で繁殖する。最高羽数は 11 月 30 日の 31 羽であった。ウミアイサと同じく魚食性のカモである。カワアイサという名前あるが川の河口付近の海岸でも多く見られる。森林の樹洞や土の中の穴で営巣することからシノリガモと同じく森川海を繋ぐ種類である。

・ユリカモメ

表-23) 2024 年ユリカモメの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
ユリカモメの個体数	611	391	15	0	0	0	0	0	0	0	0	2	130	72	758	349	0	88	6	0	4	0	0	1	2427

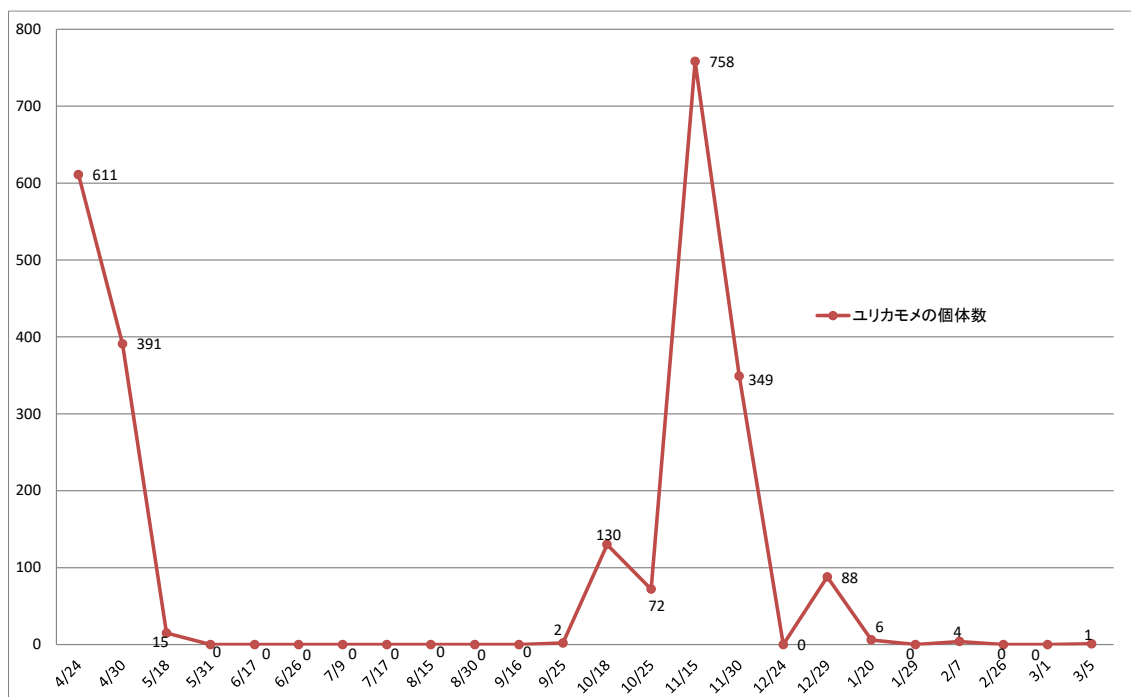


図-22) 2024 年ユリカモメの調査日別個体数の推移グラフ (2024 月～20253 月)

春と秋の渡りの時期に多く、冬期間は越冬するの個体が少数観察された。秋の越冬地に向かう個体が 11 月 15 日に 758 羽が観察され、春には 4 月 24 日に繁殖地に向かう 611 羽が確認された。春に通過する個体は、顔が黒くなった繁殖羽の個体が多かった。



図 - 23) ユリカモメの群れ

・オオセグロカモメ

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
オオセグロカモメの個体数	620	775	1063	1037	1219	1236	1005	652	826	733	1298	965	810	1093	826	1278	983	871	594	360	552	498	246	823	20363

表-24) 2024 年オオセグロカモメの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 4 月)

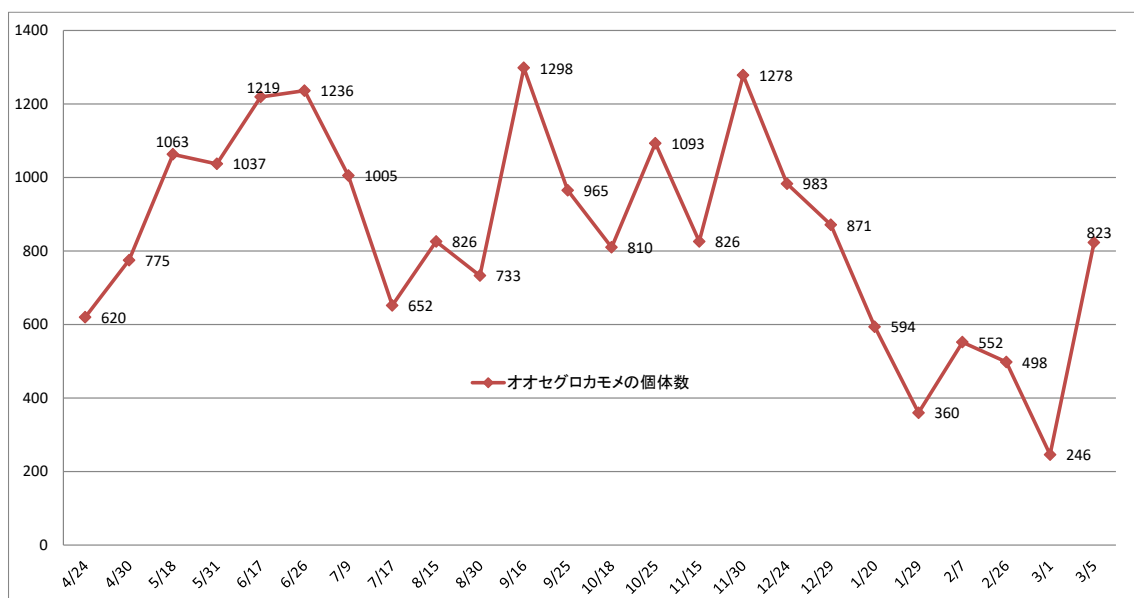


図-24) 2024 年オオセグロカモメ調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

この鳥は知床半島で繁殖する。年間を通して観察することができる。水産廃棄物や漁船からこぼれた魚を食べることも多いため、漁港周辺に生息することが多い。繁殖は、建物の屋根や防波堤などの人工物や岩礁や崖の岩棚など多くの環境を利用する。

北海道の各地で繁殖数を減らしていることから、2017 年より北海道指定の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。それは知床半島で営巣数が減少していることも理由である。

・ウミネコ

表-25) 2024 年ウミネコの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
ウミネコの個体数	10	23	3	2	2	50	48	33	461	558	920	251	990	263	910	268	0	0	1	0	0	0	0	0	4793

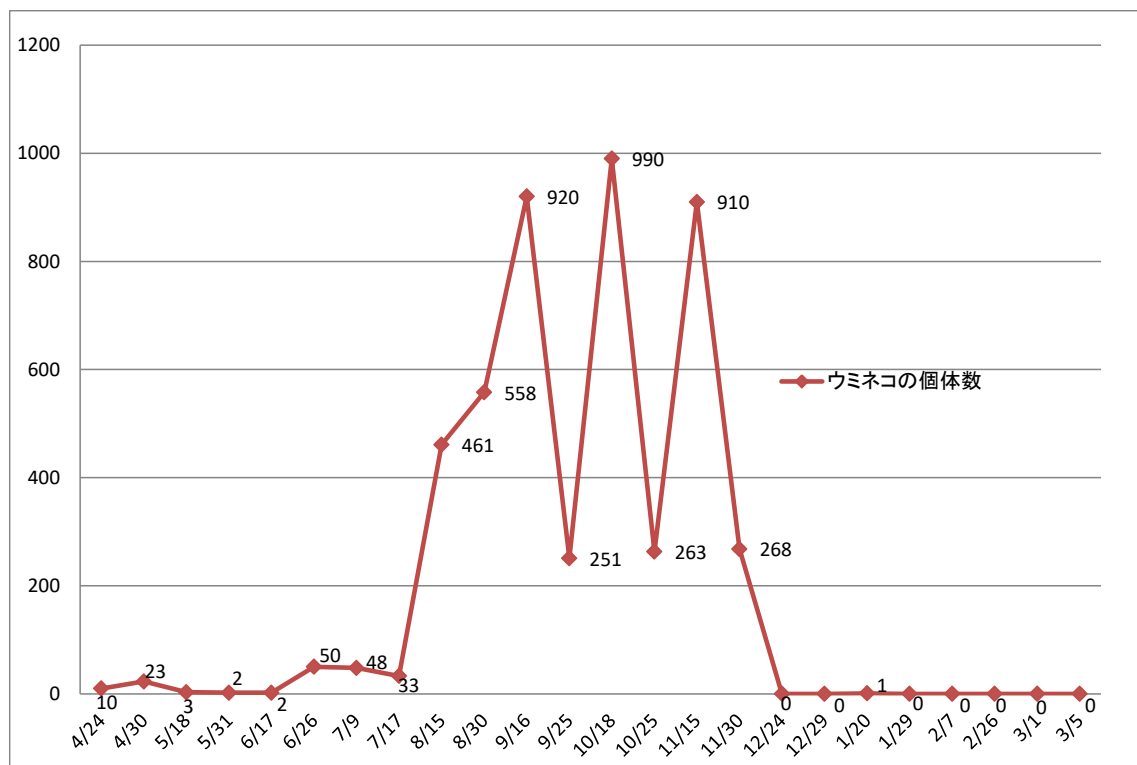


図-25) 2024 年ウミネコの調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

北海道の各地で繁殖数を減らしていることから、2017 年より北海道指定の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。それは知床半島で営巣数が減少していることも理由である。繁殖期が終了した時期から個体数が増え始め 9 月 16 日 920 羽・10 月 25 日 990 羽・11 月 15 日にも 910 羽を確認した。冬期間は、ほぼ確認されなかった。

・ミツユビカモメ

表-26) 2024 年ミツユビカモメの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
ミツユビカモメの個体数	0	0	0	130	0	4	0	2	0	2	0	0	160	12	273	89	0	0	0	0	1	0	0	0	673

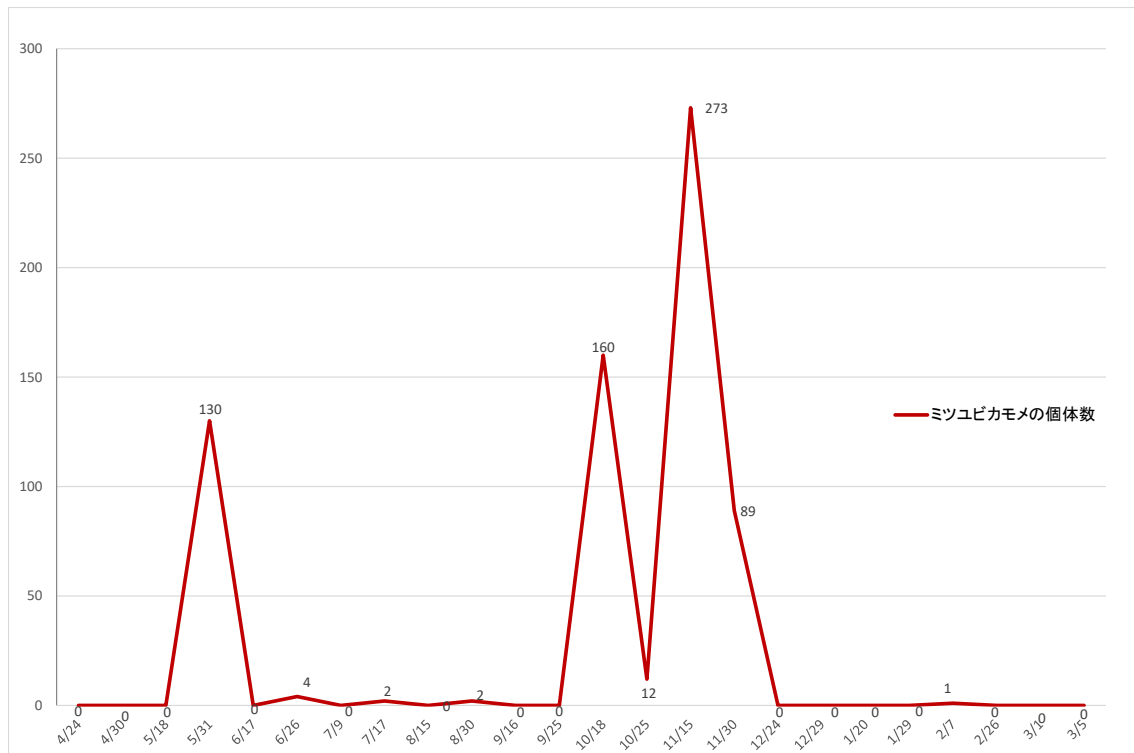


図-26) 2024 年ミツユビカモメの調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

北千島以北で繁殖する。秋の渡りの時期の 11 月 15 日に最高個体数 273 羽が観察された。小型のカモメであるが魚食性が強く、飛来数の増減は、餌資源である小魚の資源量に影響を受けていると考えられる。

・カモメ

表-27) 2024 年カモメの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
カモメの個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	82	384	0	2	41	1	0	0	0	0	514

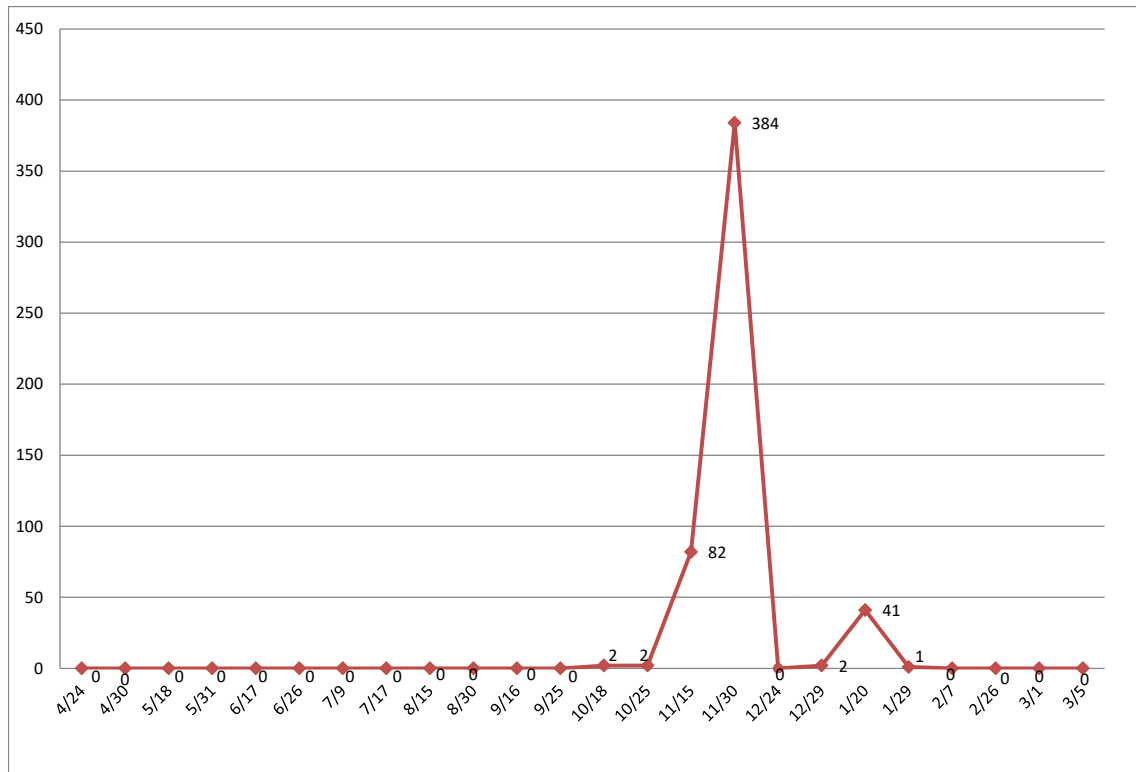


図-27) カモメの調査日別個体数の推移グラフ (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

北千島・サハリンより北で繁殖する。群れで海面で何かを啄む姿が観察されることが多く、海面でプランクトンなどを食べているものと考えられる。最高羽数は 11 月 30 日 384 羽であった。春茹古丹川の河口で休息する 248 羽を観察した。

・ウトウ

表-28) ウトウの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

月日	4/24	4/30	5/18	5/31	6/17	6/26	7/9	7/17	8/15	8/30	9/16	9/25	10/18	10/25	11/15	11/30	12/24	12/29	1/20	1/29	2/7	2/26	3/1	3/5	合計
ウトウ個体数	2	11	0	788	104	111	1336	318	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2670

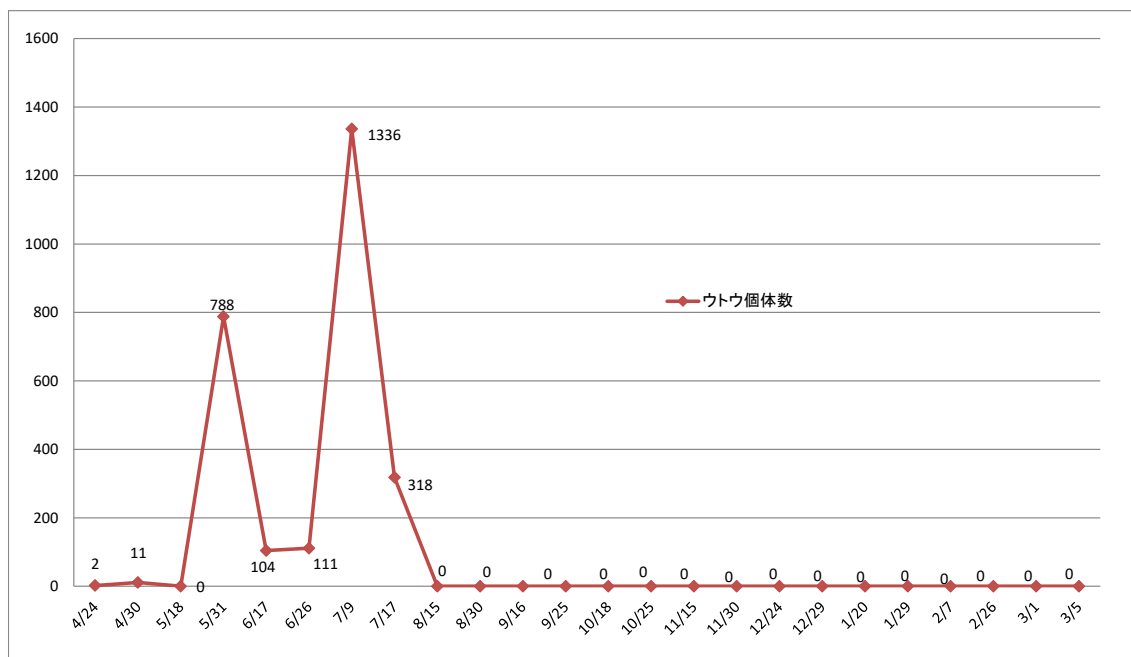


図-28) ウトウの調査日別個体数の推移 (2024 年 4 月～2025 年 3 月)

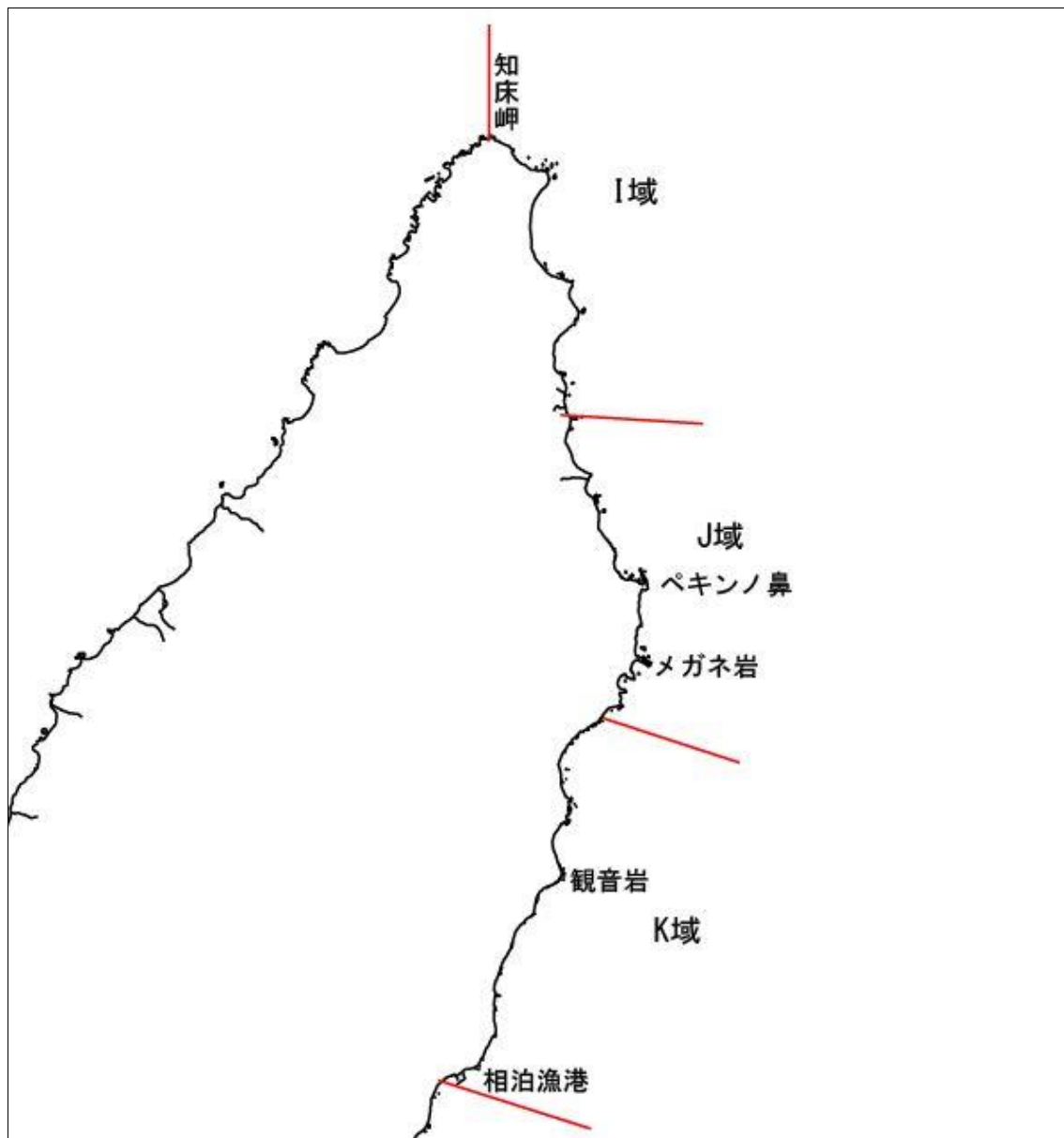
知床半島では繁殖の記録はない。繁殖期に飛来する個体は近隣の国後島や択捉島の島嶼部で繁殖するものだと考えられる。最高個体数は繁殖期の 7 月 17 日の 1336 羽で、峯浜沖で約 200 羽・八木浜沖で約 200 羽を確認した。繁殖期の育雛期に多く出現することから、この近海に餌資源である魚類の生息状況に個体数が大きく影響を与えていると考えられる

2-1-2. 海上からの海鳥調査

＜調査範囲＞

相泊～知床岬の沿岸およびその海域における、船舶を用いた海上調査。

相泊～知床岬の沿岸およびその海域については、K～Iの3区間に分け、さらに岸側と沖側に分けて調査用紙を作成し海上調査時に用いた。



図ー1) 海上調査位置図と区域割図

表-1) 海上からの調査時の気象条件

日付	天候	波高	海水温(平年比)	気温	風向	風速
7月9日	晴	1m	15°C(+2°C)	17.4°C	東南東	2.0m/s

<調査方法>

相泊～知床岬の沿岸およびその海域については、作成した調査用紙をもとに調査を行った。できるだけ波の状態の良い日を選んで小型漁船にて相泊港発着で、基本的に K 岸側、J 岸側、I 岸側を往路とし、知床岬にて海上約 3 km～4 km ほど沖に出し、I 沖側、J 沖側、K 沖側を復路として調査を行った。

海鳥がいる場合は徐行し海鳥の行動を妨害しないよう注意を払って航行した。各調査日および調査時の条件については、海上からの調査時の気象条件（表-1）に示した。

調査は、船上から 12 倍の防振双眼鏡を用いて海上を観察し、観察できる範囲に出現したすべての海鳥の個体数を記録した。



図 - 2) クロアシホウドリ

＜調査結果および考察＞

1) 各区域と調査日の結果考察

観察日における鳥種と個体数を観察区域ごとに表としてまとめた。

・2024年7月9日の沿岸海鳥調査

表-3) 2024年7月9日海上センサスで観察された海鳥の種類と個体数

No	種別\区域	往 路			復 路			合計
		相泊～タケノコ岩 (K域)岸側	タケノコ岩～滝ノ下 (J域)岸側	滝ノ下～知床岬 (I域)岸側	滝ノ下～知床岬 (I域)沖側	タケノコ岩～滝ノ下 (J域)沖側	相泊～タケノコ岩 (K域)沖側	
1	シノリガモ			3				3
2	コアホウドリ				2			2
3	クロアシホウドリ				8	5		13
4	フルマカモメ				33	7	10	50
5	ハイイロウミツバメ				16	25	22	63
6	アオサギ	21						21
7	ヒメウ	22		38				60
8	ウミウ	5	103	66				174
9	アカエリヒレアシシギ							0
10	ミツユビカモメ		5		4		10	19
11	ウミネコ	10	171	49			1	231
12	オオセグロカモメ	236	624	195	4	1	13	1073
13	トウゾクカモメ				3			3
14	ウミスズメ				2			2
15	ウトウ		1		282		23	306

海鳥の育雛期で営巣分布調査と海上センサスに並行して行った。羅臼側では2021年からウミネコの営巣を確認していたが、本年は営巣の確認はできなかった。2023年には31巣を確認したが雛の確認はできなかった。営巣をしなくなった原因として繁殖が上手く行かなかった事が原因していると考えられる。ウミウは眼鏡岩の北の岩礁で21数を確認したが、ヒグマが容易に上陸できるような場所であり、この周辺では過去にもヒグマの捕食が確認されているため繁殖が成功した可能性は低い。アオサギが21羽岩礁で見られた。これまでの観察例がないため今後の個体数の動向を注目したい。シノリガモは東北以北の繁殖個体が絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。斜里側で雛連れの個体を確認されているが、今回の観察では繁殖にかかわる行動は確認できなかった。往路の約4kmの沖では、クロアシホウドリ13羽とコアホウドリ2羽が観察された。近年、アホウドリ類がネイチャークルーズ船などでも頻繁に観察されており、羅臼沖を通過する個体が増えている。

*6月7月に各2回の調査を予定していたが、高波が続いたために調査が中止となり7月9日の1回の調査にとどまった。そこで、補足調査として9月3日にネイチャークルーズ船において海鳥調査を行った。

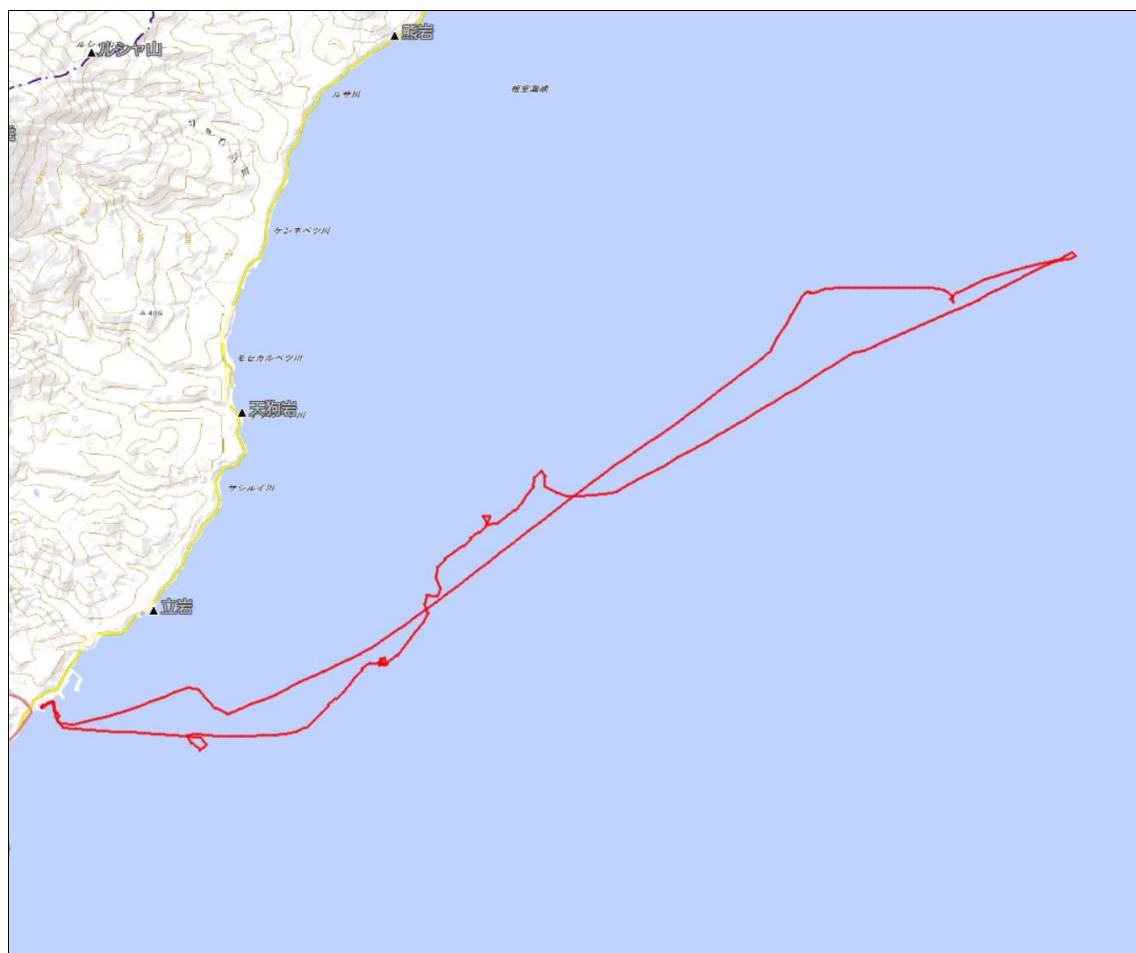


図 - 2) ネイチャークルーズ船の航路

9月3日12時36分～14時49分の羅臼漁港発着のエバーグリーン号に乗船して調査を行った。今回のクルーズ船の目的はマッコウクジラの観察であった。西北西へ日露中間ライン付近まで航行した。

表－2) ネイチャークルーズ船で観察された鳥類

No	種類	個体数
1	アカエリヒレアシシギ	1
2	ウミネコ	95
3	オオセグロカモメ	44
4	カモメ	2
5	ミツユビカモメ	1
6	クロアシアホウドリ	2

アカエリヒレアシシギ 1 羽・ウミネコ 95 羽・オオセグロカモメ 44 羽・カモメ 2 羽・ミツユビカモメ 1 羽・クロアシアホウドリ 2 羽と海鳥類が少ない状況であった。

まとめ

羅臼沖の根室海峡は、知床半島と国後島に挟まれた幅 25～45km の海域である。その水深は先端部で 2000m を超える一方、半島の基部の海峡は 20m と浅く、その中央部分は湾のように水深が急激に変化している。その海底地形は多様で、様々な海洋生物の生息地となっている。また冬季には流氷が到来し、それを栄養源として豊富なプランクトンがもたらされる。こうしたプランクトンを求め、多くの魚が回遊し、海鳥やクジラ類の貴重な餌資源となっている。

こうした海流や地形の特色から、豊富な海洋資源を有する羅臼海域は、世界の海洋の広範囲を生息域にしているミズナギドリ類やアホウドリ類など多くの渡り鳥の中継地となっている。

海上からの調査では、相泊から知床岬までの沿岸と沖合を調査する予定であったが高波の影響で 1 回の調査に留まった。沿岸部の調査は、沿岸の海鳥の個体数や営巣数を把握する上で必要であるが、使用する船舶が小型のため海況による影響を受けやすい。

今後は、沖合の海鳥の生息状況を把握するために、クジラウォッチング船を利用した調査も必要である。海鳥は、目に触れやすい海洋生物の代表である。沿岸と沖合の生息状況を把握するモニタリング調査は長期にわたり海の健康状態を知る上で不可欠であると考えられる。

3. ケイマフリ

3-1. 海上分布調査及び個体数調査

<調査方法>

2024年6月15日から8月9日までの期間に計11回の調査を行った。調査は、調査条件を揃えるため、調査日の設定は波高が1m以内で実施とした。調査時間は、調査海域の東側に崖がそびえ早朝は岸に近い海域が日陰になり逆光で目視調査が困難であるため、十分に日が当たる午前10時から11時以降に開始し、各回2時間程度の調査とした。ただし、波高や天候により調査時間を変更することもあった。調査範囲は、ケイマフリが海上で生息するウトロ港からエエイシレド岬までとし、岸から約600m以内を調査した。調査航路は、ウトロ港からプユニ岬間は直線的に航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間は往路約50m～100m沖を、復路は約400m沖を航行してカウントした。調査には、小型船舶を利用し、約2～4ノットの速度で航行し左右両舷前方約200mの海上および陸上で発見した個体の数・位置などの情報を記録した。なお、海岸線を基にして約100mメッシュで海域を区切り数と位置を記録した。観察地点の位置情報は船舶装備のGPSで決定した。

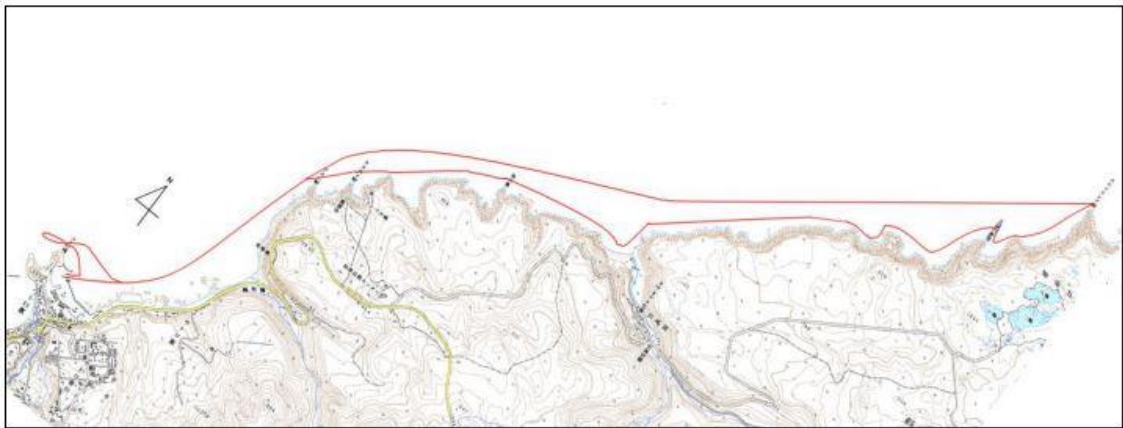


図-1) ケイマフリ個体数モニタリングの航路（国土地理院2万5千の1地形図を加工）

＜調査結果＞

表-1) ケイマフリ海上センサス結果(気温はアメダスのウトロ観測地点の正午の記録、海面水温と平均値は気象庁の海の健康診断の図より引用)

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
調査日	6/15	6/18	6/21	6/28	6/30	7/7	7/14	7/21	7/23	7/28	8/9
天候	晴	曇/晴	曇	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	曇/晴
気温(℃)	20.9	25.3	21.1	24	28	25.9	19.1	28.3	31.7	26.1	18.3
波高(m)	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
海水温(℃)	9	12	12	12	13	12	16	19	19	19	20
平年比(℃)	+1	+2	+2	+2	+3	+2	+3	+5	+5	+4	+4
個体数	108	108	—	134	147	214	70	287	277	152	0

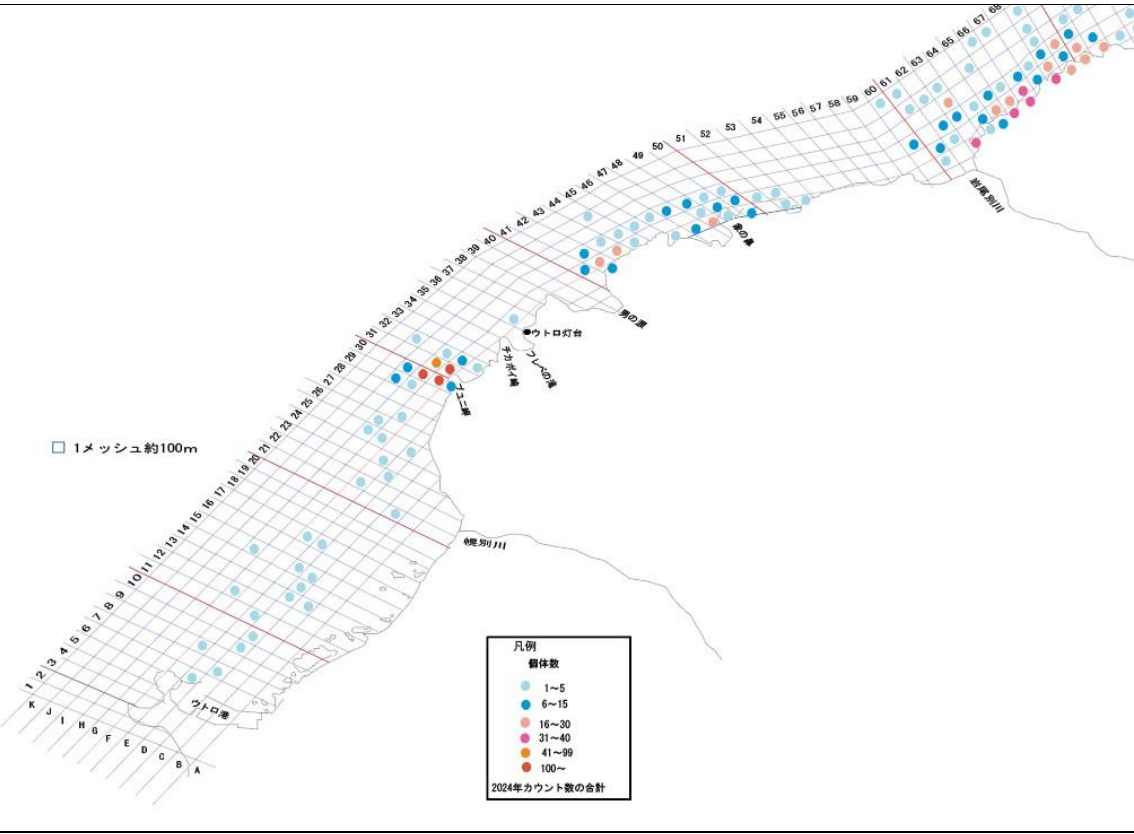


図-2) 2024 年ケイマフリ海上分布 (ウトロ港～岩尾別周辺)

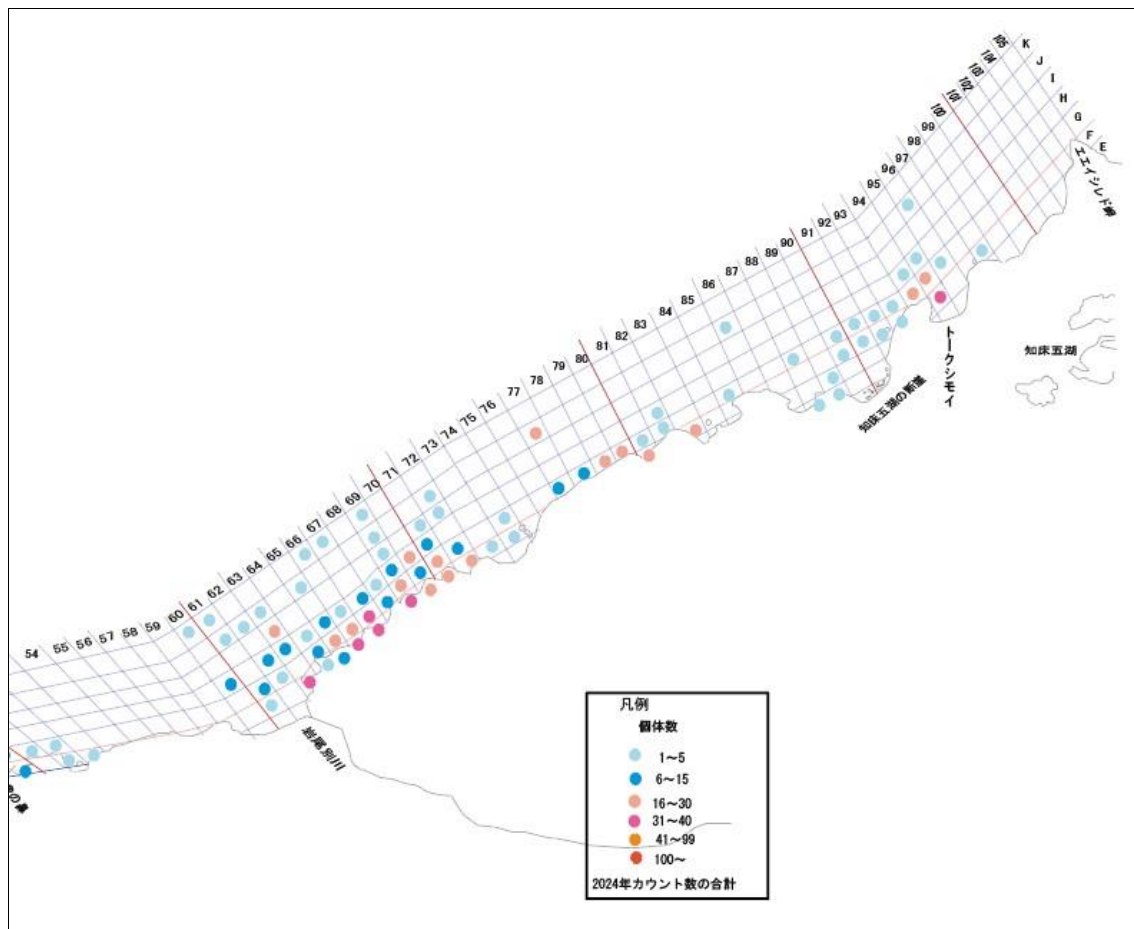


図-3) 2024 年ケイマフリ海上分布 (岩尾別～エエイシレド岬)

2024 年に確認された最大個体数は 7 月 28 日の 287 羽であった。2023 年に比較して最大個体数で 42 羽が増加した。海上分布は最大の営巣地であるプユニ岬沖が最も多く岩尾別台地沖がそれに続いた。営巣地に近い海域に最も密度が高い。この種は、営巣地周辺の海域で待機することが多く、それが関連しているものと考えられる。また、ウトロ漁港周辺に滞在する個体は、この海域は水深が浅く海底が砂地で餌資源のイカナゴの生息に適しているからだと考えられる。

3-2. 繁殖状況調査

<調査方法>

調査期間は、巣への出入りを確認した6月15日から7月28日まで行い、これまで営巣が確認されてきたプユニ岬からトークシモイまで調査した。小型船舶を利用し海上で嘴に魚を咥えて巣に持ち帰る親鳥を追跡して、断崖の出入りしている場所を営巣中の巣として確定し場所と位置と数を記録した。また、前述の海上センサス調査中に同様の親鳥の行動が観察された場合も営巣地として記録した。また、7月7日と7月14日にプユニ岬沖で2時間程度定点調査を行った。

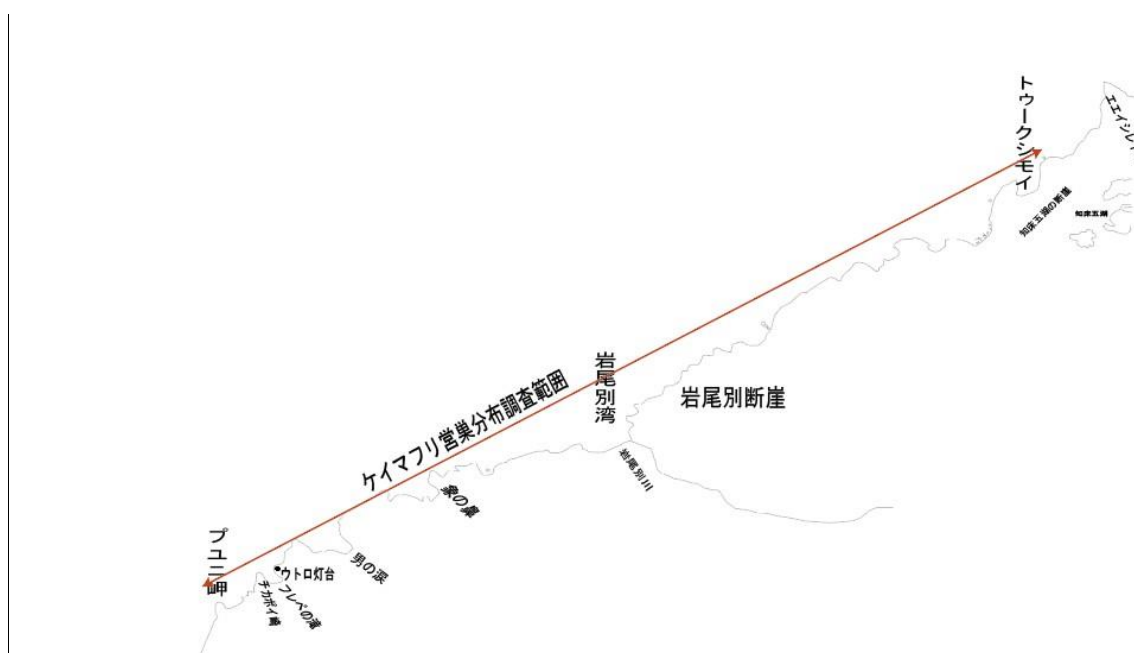


図 - 4) ケイマフリ営巣分布調査位置図



図 - 5) ケイマフリが営巣する岩尾別断崖

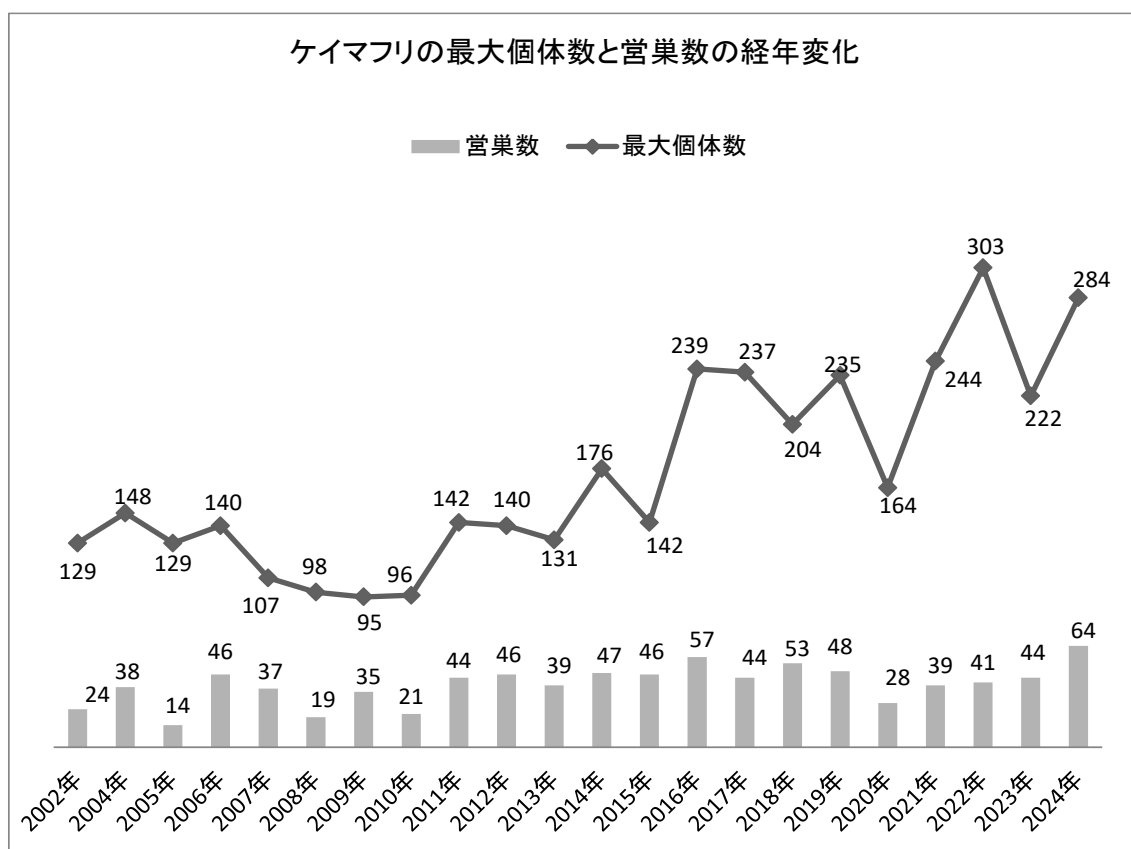


図-6) ケイマフリの最大個体数と営巣数の経年変化 (2002 年～2024 年)

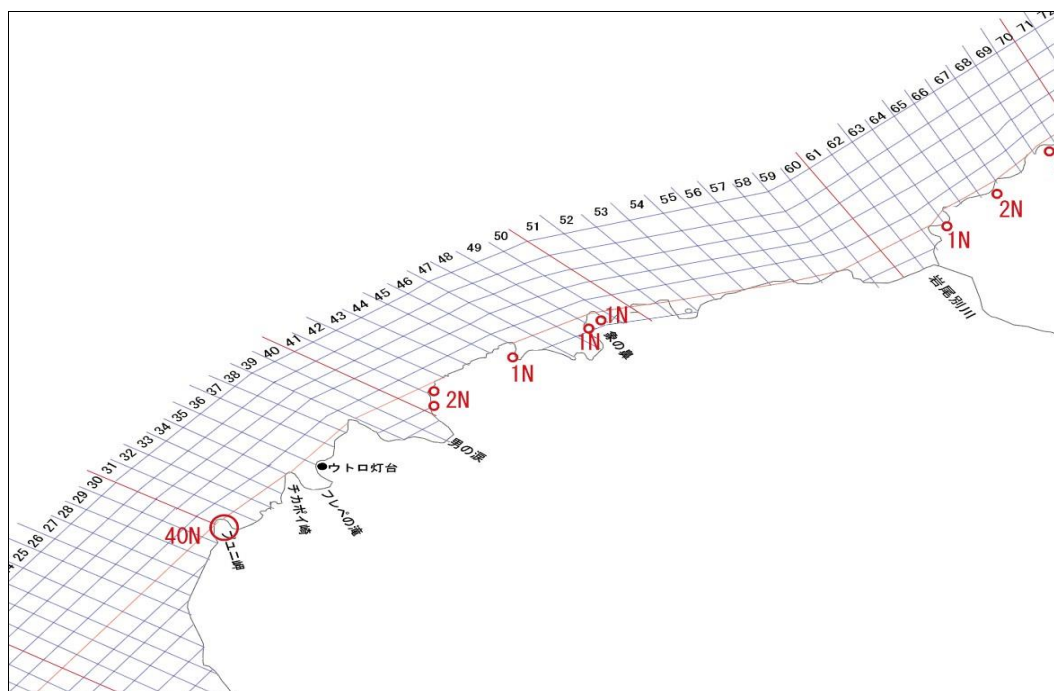


図 - 7) 2024 年ケイマフリの営巣分布 (プユニ岬から岩尾別)

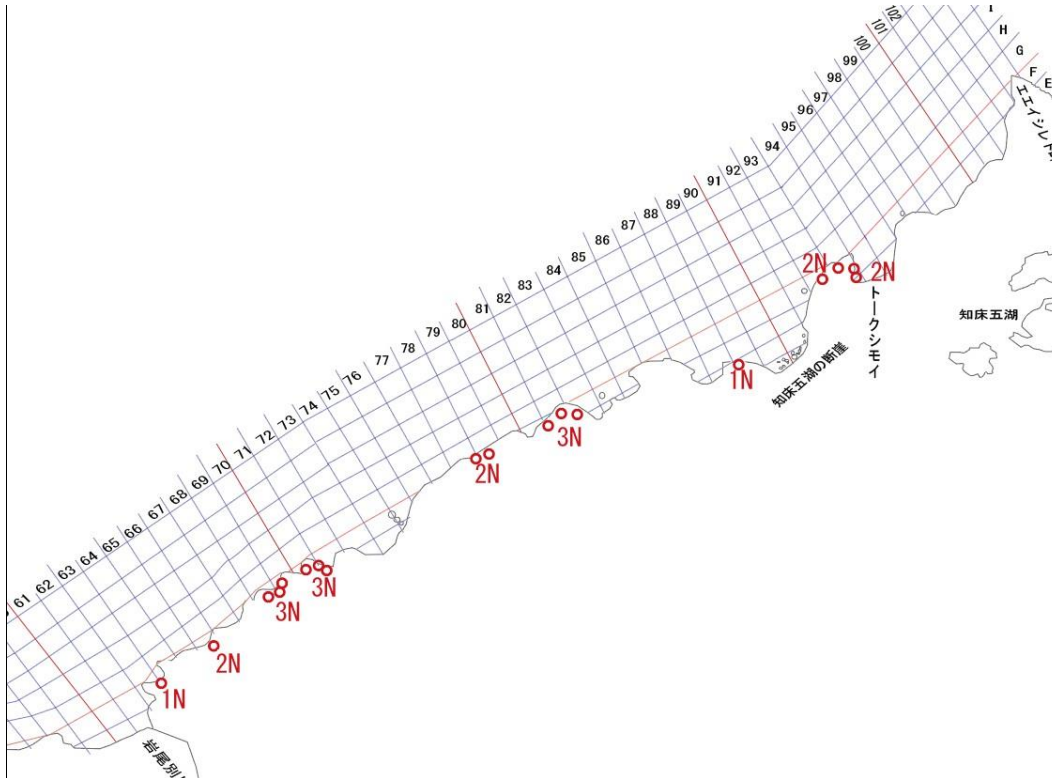


図 - 8) 2024 年ケイマフリの営巣分布（岩尾別からトウクシモイ）

表-1) ケイマフリの海域別営巣数の経年変化

地域名/年	2002年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
プユニ岬～男の涙	10	11	7	25	24	6	25	9	23	21	19
男の涙～象の鼻	10	3	0	4	1	1	1	3	6	4	4
象の鼻～岩尾別	1	4	5	8	2	0	1	1	0	1	0
岩尾別台地	0	12	2	4	7	8	4	6	5	8	10
知床五湖の断崖	0	1	0	2	2	4	3	2	9	11	6
トウクシモイ	3	7	0	3	1	0	1	0	1	1	0
Total	24	38	14	46	37	19	35	21	44	46	39
地域名/年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
プユニ岬～男の涙	25	25	26	18	34	26	10	21	27	21	40
男の涙～象の鼻	4	2	0	4	5	8	3	2	2	4	3
象の鼻～岩尾別	0	1	3	2	0	0	1	1	0	2	2
岩尾別台地	12	7	25	15	3	6	11	12	9	12	14
知床五湖の断崖	5	10	2	6	4	2	1	2	1	0	1
トウクシモイ	1	1	1	1	7	6	2	1	2	5	4
Total	47	46	57	46	53	48	28	39	41	44	64



図 - 9) プユニ岬のケイマフリの営巣地 (○が営巣地点)

2024 年の知床半島全体のケイマフリの営巣数は 64 巣であった。これは、2002 年調査開始以来最も多い確認であった。プユニ岬が 40 巣で最も多く、続いて岩尾別台地の断崖で 14 巣であった。トゥークショモイでは 4 巣であった。岩尾別台地の崖は複雑でありプユニ岬と比較して距離も長いため、営巣数の全数を確認するのは困難である。そのため、実数よりも多く営巣している可能性もある。



図 - 10) 岩尾別の断崖のケイマフリ営巣穴

3-3. ケイマフリ餌構成調査

ケイマフリ生息状況調査の調査中に確認した、育雛期に巣内のヒナに持ち帰るために嘴に魚類をくわえている個体を観察し餌構成調査を行った。

表-2) ケイマフリ餌構成調査結果

No	月日	イカナゴ	カレイ類	カタクチイワシ	不明	合計
1	6月15日	1			1	2
2	6月18日	1				1
3	6月21日	1				1
4	6月28日	4				4
5	6月30日	3	1			4
6	7月7日	7	1			8
7	7月14日	6				6
8	7月21日	7				7
9	7月23日	5				5
10	7月28日			3		3
		35	2	3	1	41

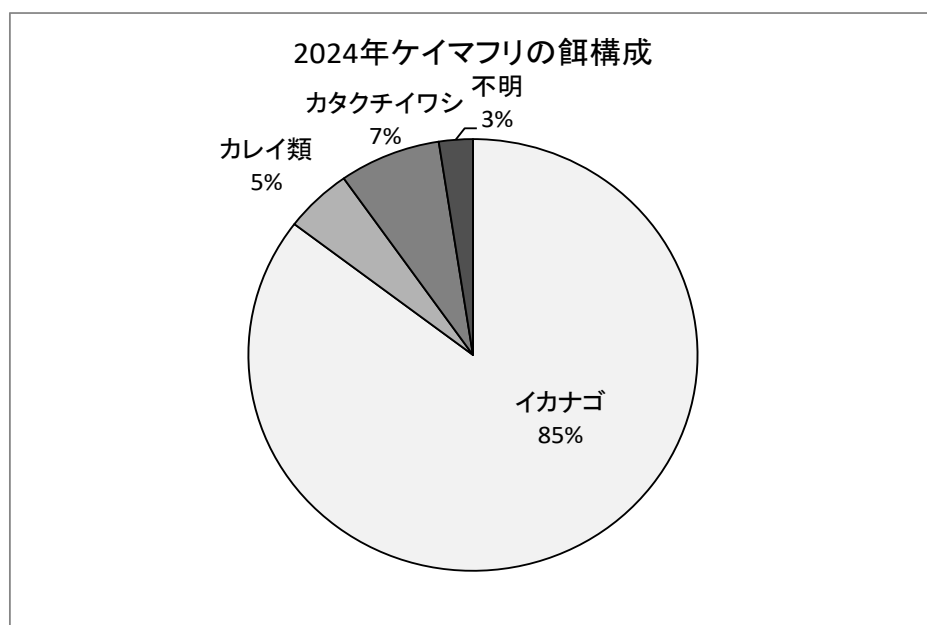
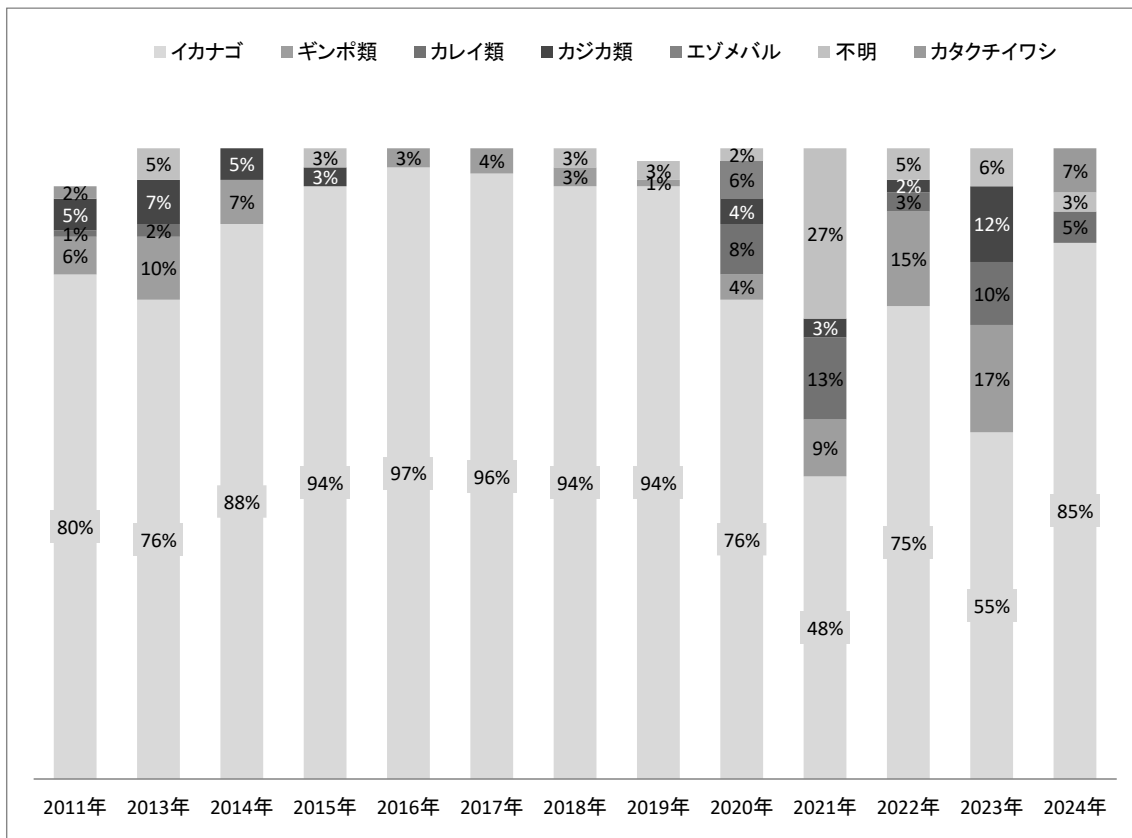


図-11) 2024 年ケイマフリの餌構成

2024 年のケイマフリがヒナに持ち帰る餌を調査した結果、イカナゴ：35 例（85%）カタクチイワシ 3 例（7%）・カレイ類 2 例（5%）であった。これまで、イカナゴについて捕食していたギンポ類が今回は観察されなく、新たにカタクチイワシが 3 例観察された。2023 年はイカナゴ 55%でギンポ類が 17%であった。2024 年はイカナゴの生息数はやや回復し、ギンポ類の生息数は減少した可能性がある。



図ー12) ケイマフリの餌構成の経年変化



図ー13) カタクチイワシを喰えるケイマフリ

〈ケイマフリの生息状況についての考察〉

2022 年が過去最高の 303 羽から 2023 年 222 羽と減少したが 2024 年は 284 羽と回復した。営巣数も過去最高の 64 巣を確認した。ケイマフリの営巣地は崖の穴や隙間に営巣するために全数を確認するのは困難であるため単に比較はできない。近縁種のウミバトでは 1 日平均 16 回雛に給餌するという研究結果があり、観察時間がタイミングに合致すれば確認数が前後する可能性もある。

知床半島での雛に給餌する餌構成は、主食のイカナゴが 85%と前年の 55%から回復した。これまで、イカナゴの次に給餌していたギンボ類の確認がなかった。また、育雛期の後半にカタクチイワシが 3 例確認された。2011 年以来の観察例だった。

本年は、雛の巣立ちが 7 月 23 日に観察することができた。本来、ケイマフリの巣成ちは夕方から夜間の暗い時間にするが日中に観察される例は少ない。天敵に捕食されるリスクがかなり高いと思われる。また、観察された個体は警戒心が薄く調査者が近づいても逃げなかった。巣立ちした雛は飛翔力が高いと言われているが、観察された個体は衰弱しているようにも感じられた。

水温も高い状態が続き育雛期の 6 月上旬から 7 月下旬は平年よりも高い海水温の日が続き、7 月 19 日には平年よりも 4℃も高い 19℃の海水温であった。今後もケイマフリの繁殖期に高い海水温の影響が繁殖成功率の低下などの影響を与える可能性もあり、今後もデータを収集し蓄積し解析する必要がある。

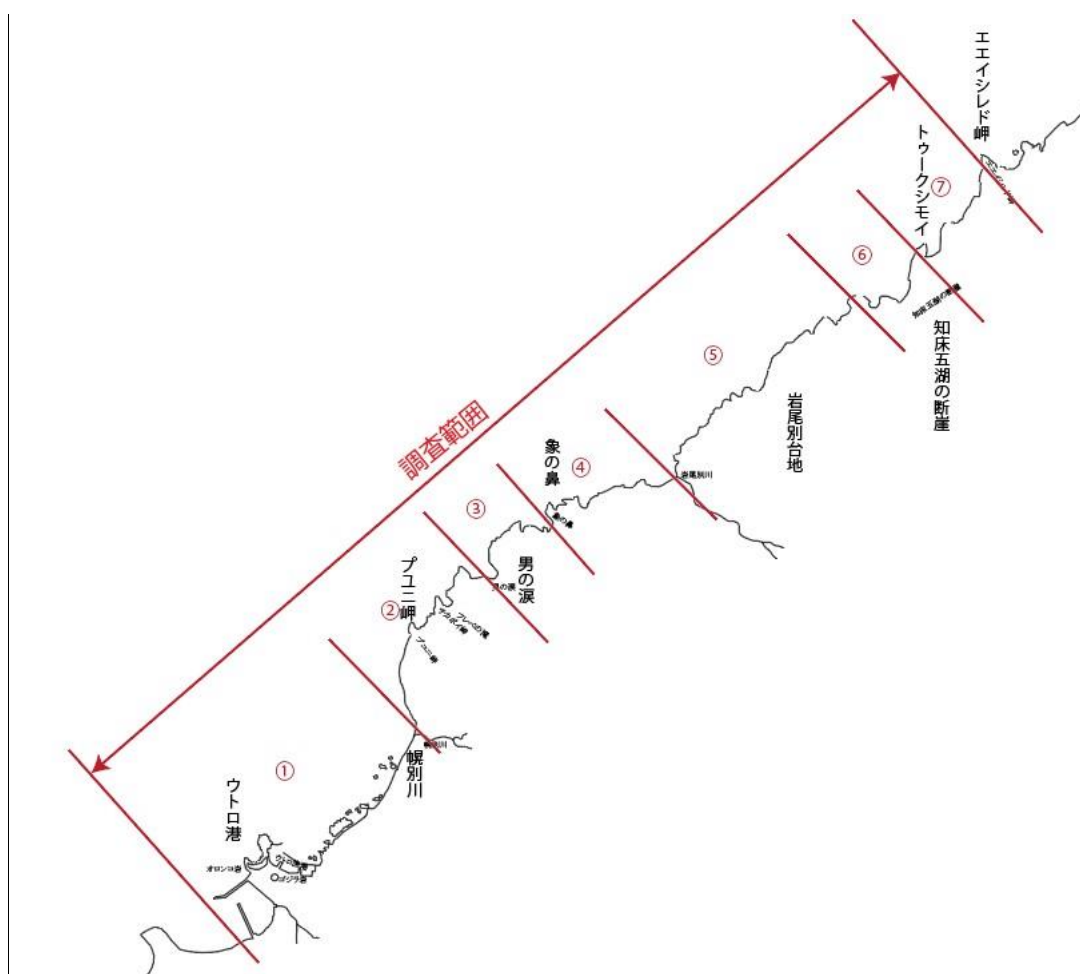


図-14) 7 月 23 日に観察されたケイマフリの巣立ち雛

4. 知床半島ウトロ地域における海鳥繁殖期のオジロワシ生息分布状況調査

<調査目的>

知床半島のウトロ側は国内でも有数の海鳥の繁殖地でケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウが繁殖している。しかし、近年になり、ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの営巣数が減少しており、オジロワシによる捕食圧が減少の要因のひとつになっていると考えられている。そこで、オジロワシの個体数とその年齢構成、オジロワシによる海鳥への直接的な捕食行動について調査し個体数推移をモニタリングすることを目的とする。



図ー1) 調査位置図と調査範囲

<調査方法>

ケイマフリの生息状況調査と同時に行った。2024年6月15日から8月9日までの計11回の調査を行った。また、7月7日と7月14日にプニ岬沖で2時間程度定点調査を行った。調査地点はプニ岬周辺から男の涙周辺で調査を行った。

調査日の設定は、同じ条件で調査できるよう波高が1 m以内の日とし、雨天のときは調査を行わなかった。調査時間については、調査海域の東側に崖がそびえており、早朝は岸に近い海域が日陰になり逆光で目視調査が困難であるため、充分日が当たる午前10時から11時まで開始し、各回2時間程度調査を行った。ただし、波高や天候により調査時間を変更した。調査範囲はケイマフリ生息状況調査と同じウトロ港からエエイシレド岬までとし、岸から約600m以内を調査した。調査航路は、ウトロ港からプユニ岬間は直線的に航行し、プユニ岬からエエイシレド岬間は往路約50m～100m沖を、復路は約400m沖を航行して陸上および上空のオジロワシを調査し、その個体数と年齢を地図上にトレースして記録した。

〈調査結果〉

表-1) オジロワシの個体数

No	調査日	オジロワシ				合計	備考
		成鳥	亜成鳥	幼鳥	不明		
1	6月15日					0	
2	6月18日					0	
3	6月28日	1				1	
4	6月30日		1			1	
5	7月7日	2	1			3	定点調査
6	7月14日	1				1	定点調査
7	7月21日					0	
8	7月23日	3				3	
9	7月28日	2		1		3	
10	8月9日	1	1	2		4	

〈考察〉

2024年のオジロワシの最大個体数は8月9日の4羽であった。8月9日は成鳥1羽・亜成鳥1・幼鳥2であった。オジロワシの幼鳥の初認は7月28日1羽であった。2021年は最大個体数17羽、2022年は最大個体数9羽、そして2024年4羽と徐々に個体数は減少している。



図 - 2) 飛翔するオジロワシ成鳥

5. 2024 年知床半島における海鳥の繁殖状況

<調査対象種と調査範囲>

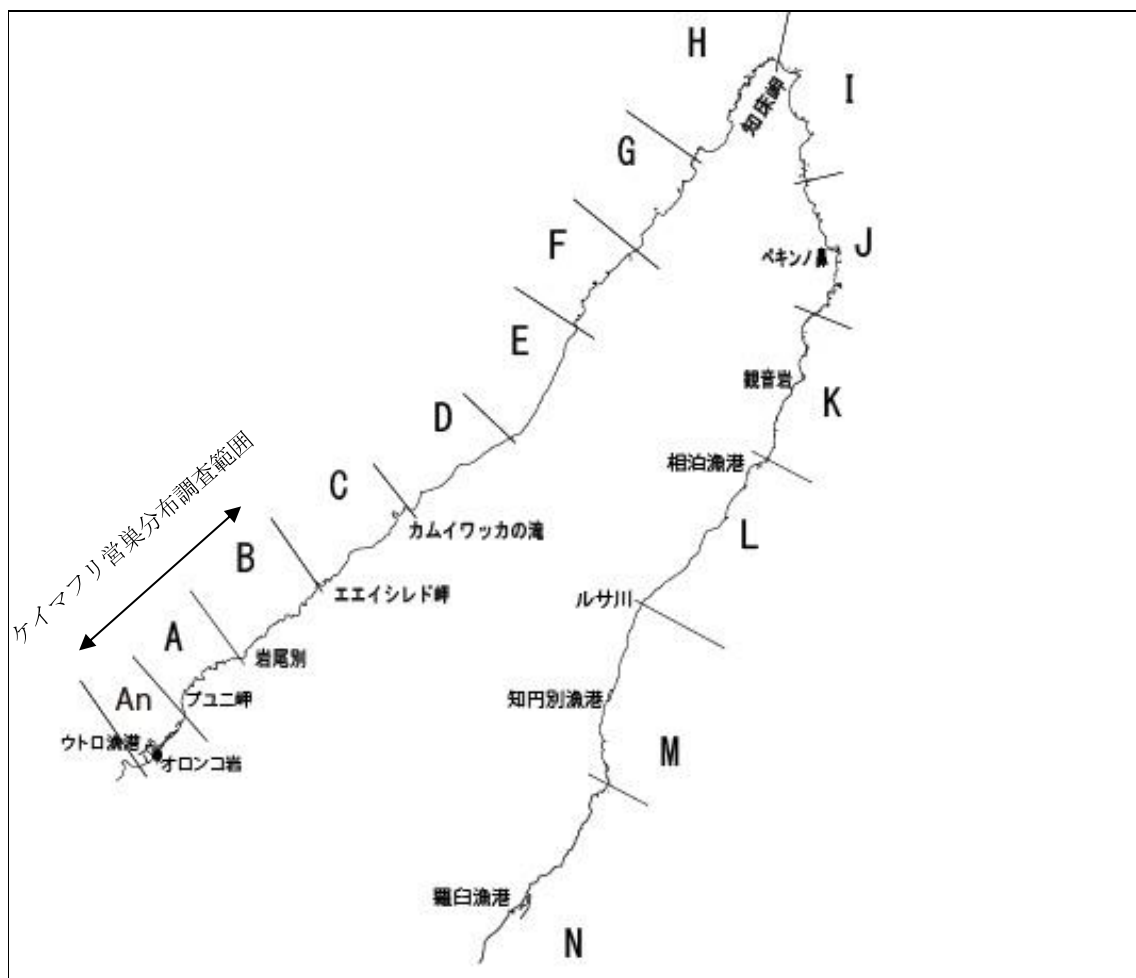


図 - 1) 知床半島調査地区図

本地域で繁殖するウミウ、ウミネコ、オオセグロカモメを調査対象とした。斜里町ウトロ漁港周辺から羅臼町漁港周辺までを A 域から N 域までの 15 区域に分け、A から K までは、小型船舶を用いて海上から調査し、An 域・L 域から N 域は陸上から調査を行った。各海鳥種の営巣数を数えた。斜里側の An 域と羅臼側の M 域・N 域は世界遺産外で A 域から L 域は世界遺産地域である。

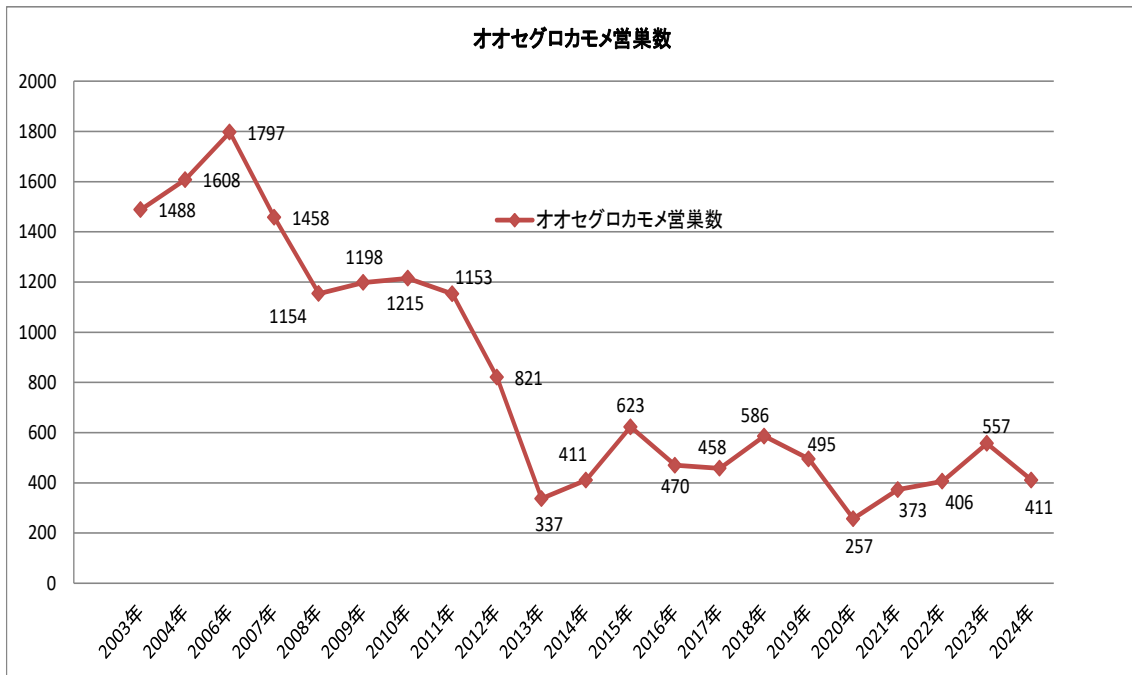
<調査結果と各海鳥の営巣状況と考察>

・2024 年知床半島における海鳥類の営巣数

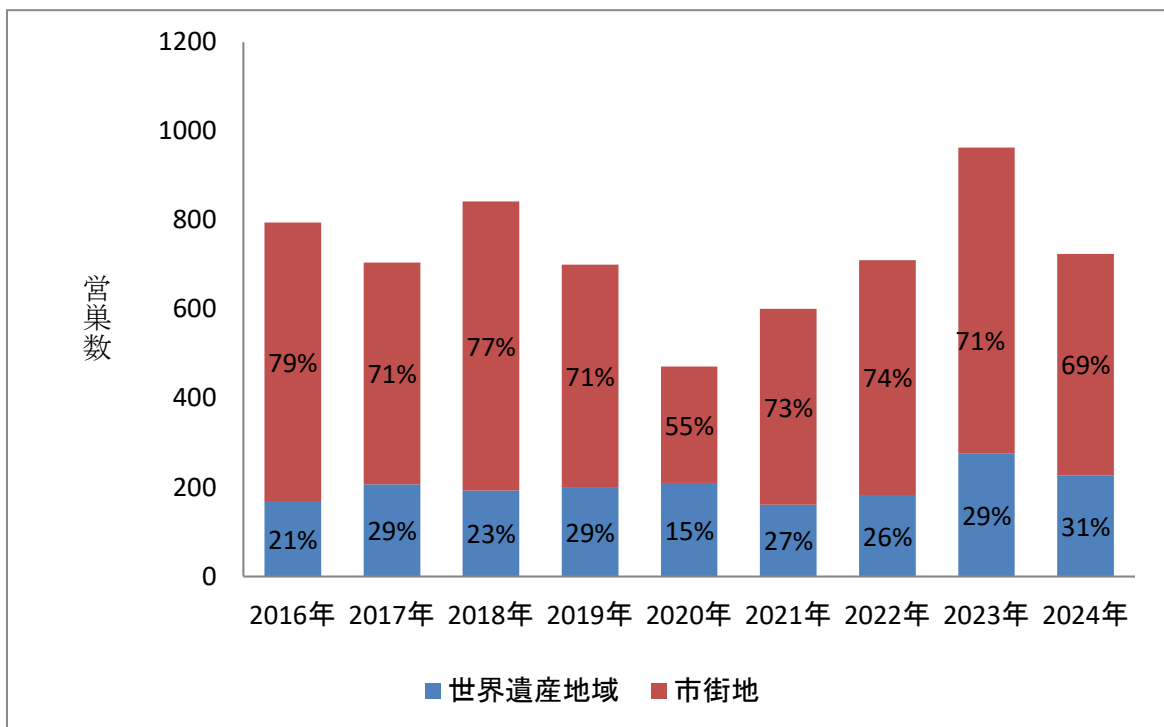
・オオセグロカモメ

表 - 1) オオセグロカモメの営巣数の経年変化

区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
An	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
A	599	637	785	569	806	642	806	784	760	1046	745	547	604	560
B	139	238	223	354	421	31	109	95	100	91	63	15	50	46
C	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	17	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	10	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	12	—	0	0	0	0	0
F	73	271	355	191	21	20	63	16	—	81	17	38	38	58
G	29	68	62	36	0	0	28	20	—	34	10	4	9	4
H	80	257	284	297	69	119	165	153	—	163	154	188	115	128
Total	920	1471	1709	1447	1317	812	1171	1080	860	1415	1016	792	816	796
I	—	—	—	—	—	—	105	148	—	88	102	69	91	73
J	—	—	—	—	—	—	189	303	—	231	238	239	220	219
K	—	—	—	—	—	—	23	77	—	63	102	54	71	127
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Total	—	—	—	—	—	—	317	528	860	382	442	341	382	419
知床半島全体														
Total	—	—	—	—	—	—	1488	1608	—	1797	1458	1154	1198	1215
区域/年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
An	—	—	—	—	256	303	263	386	294	54	212	223	280	184
A	527	412	196	161	32	5	8	5	0	37	4	17	14	17
B	0	18	0	0	0	3	2	7	5	7	2	2	11	0
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F	30	16	39	6	34	0	4	8	2	0	2	1	4	11
G	10	4	7	10	15	8	2	6	0	0	0	12	7	38
H	180	96	49	115	126	79	97	75	65	101	69	65	61	128
Total	747	546	291	292	463	398	376	487	366	201	289	320	377	378
I	78	45	2	4	46	8	9	23	18	2	11	41	39	8
J	194	164	11	46	66	33	51	54	40	49	58	27	135	15
K	134	66	33	69	45	31	34	15	71	12	15	18	6	10
L	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0
M	—	—	—	—	—	—	—	—	—	76	57	47	61	49
N	—	—	—	—	—	325	235	263	205	131	171	257	345	264
Total	406	275	46	119	157	397	329	355	334	270	312	390	586	346
知床半島全体														
Total	1153	821	337	411	620	795	705	842	700	471	601	710	963	724



図－2) オオセグロカモメの営巣数の経年変化（2003 年～2024 年）



図－3) オオセグロカモメ営巣数の羅臼町と斜里町ウトロの市街地と世界遺産地域との割合（2016 年～2024 年）

1997年から斜里町側（ウトロ漁港から知床岬）の調査を開始した。1999年は斜里町側の営巣地のみで1709巣を確認した。2003年から知床半島全体で営巣数調査を開始した。2003年から2024年までの間で、最も営巣数が多かった年は、2006年の1797巣であった。（環境省の調査は2019年より）

2020年は調査開始以来最も少ない471巣であり、2021年661巣・2022年710巣・2023年963巣と回復傾向であったが2024年は724巣と減少した

営巣地別で比較すると斜里側のブユニ岬では、2006年159巣・2010年44巣・2015年26巣と減少し2020年は0巣であったが2021年4巣・2022年11巣となり営巣数も回復傾向にあったが2023年は8巣に減少したが2024年は12巣とやや増加した。

ウトロ港に隣接するオロンコ岩では、2006年241巣・2010年203巣・2015年210巣・2019年211巣と200巣以上の営巣を保持してきた、しかし2020年は14巣と激減したが2021年108巣・2022年179巣と回復したが2023年は97巣と減少し、2024年には59巣とさらに減少しており頻繁にオジロワシが飛来していることが原因していると考えられる。

また、ウトロ市街地の廃屋の屋上では、隣接するガソリンスタンドからの糞害への苦情に対応して斜里町役場が毎年産卵した卵の除去を行っている。2018年280個・2019年137個・2020年153個の卵が除去された。オオセグロカモメの一腹卵数は2.5卵というデータから推察値すると、2018年112巣・2019年54巣・2020年61巣であったが、2021年からは営巣数を数えることができ2021年16巣・2022年14巣・2023年16巣を確認したがし巢は全て撤去された。2024年は15巣を確認したが本年は巢の撤去はなかった。

羅臼側では羅臼漁港では6月26日に198巣で抱卵中であったが7月17日には孵化した雛が53羽しか見られなかった。知床別漁港の離岸堤では6月26日に49巣であったが7月19日には雛が2羽だけとなった。羅臼漁港と知床別漁港ともにオジロワシの捕食圧が影響して繁殖成功率が低下していると考えられる。

世界遺産地域（A域～L域）と市街地（AN域・M域・N域）の割合を比較すると、世界遺産地域は31%・市街地69%と市街地の営巣数が多い傾向にある。世界遺産地域ではヒグマとオジロワシの2種の影響が大きく、市街地ではオジロワシの影響が大きいと考えられる。世界遺産地域では、フレペの滝・知床五湖の断崖・カプルワタラなど消滅してしまった営巣地も多くヒグマが上陸して捕食したという情報が観光船業者などから報告されている。

なお、ウトロ市街地の廃屋の屋上での巢の撤去が行われなかったことから人的影響はほとんどなかったと考えられる。



図－4) 2024 年 6 月 26 日羅臼漁港のオオセグロカモメの営巣地



図－5) 2024 年 6 月 26 日の羅臼町知円別漁港のオオセグロカモメの営巣地

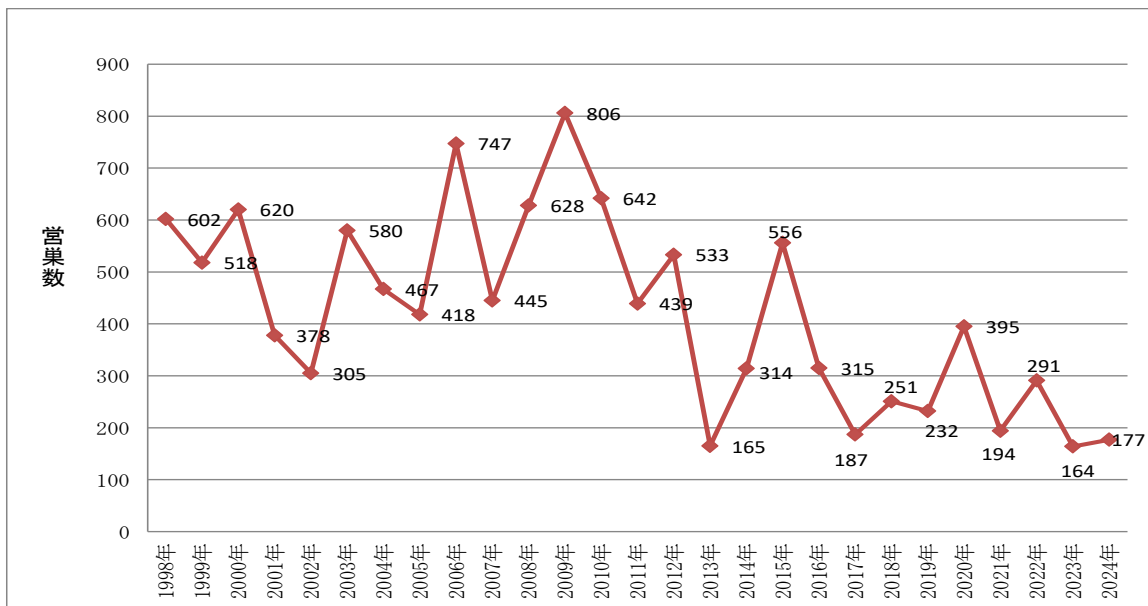


図ー6) 2024 年 6 月 28 日のウトロ漁港の離岸堤のオオセグロカモメの営巣地

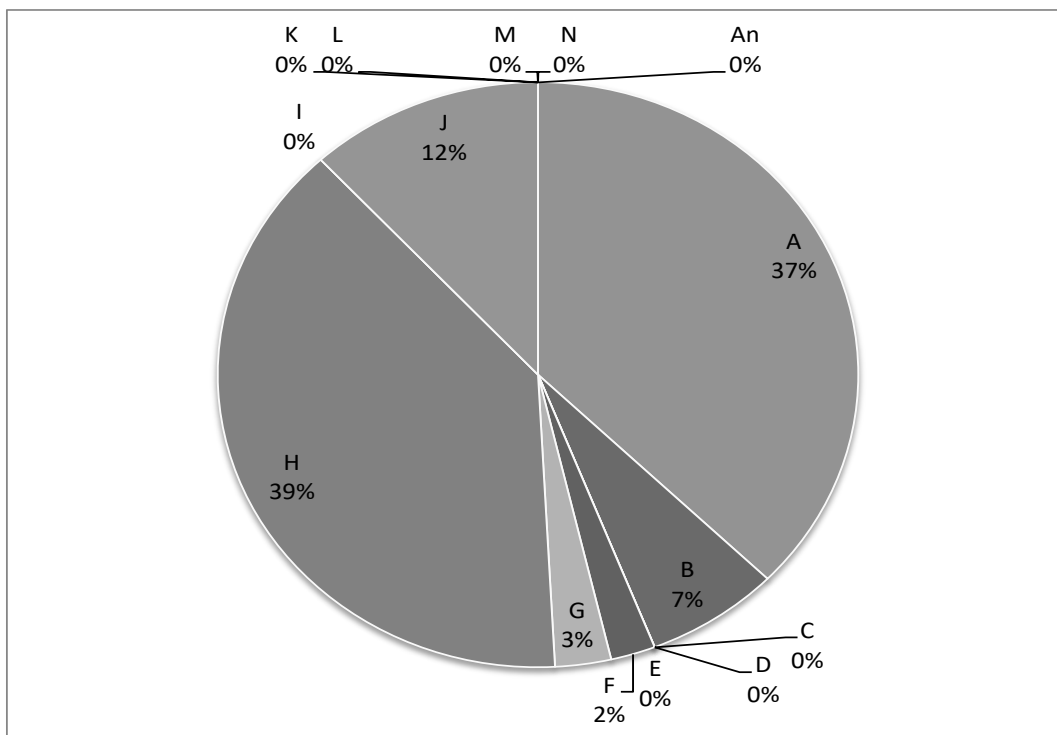
・ウミウ

表 - 2) 知床半島におけるウミウの営巣数の経年変化

区域/年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
An	Aに含む													
A	270	194	200	214	157	63	231	97	218	304	214	338	559	302
B	140	159	162	209	0	114	229	137	200	206	127	113	137	157
C	0	0	0	0	0	80	0	0	—	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0
F	44	66	49	67	96	0	14	15	—	14	7	21	14	19
G	2	20	1	23	46	0	0	63	—	33	0	9	21	0
H	106	163	106	107	79	48	64	64	—	144	51	62	24	91
Total	562	602	518	620	378	305	538	376	418	701	399	543	755	569
I	—	—	—	—	—	—	—	54	—	0	0	18	0	0
J	—	—	—	—	—	—	42	37	—	36	41	62	44	54
K	—	—	—	—	—	—	0	0	—	10	5	5	7	19
L														
M														
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Total	—	—	—	—	—	—	42	91	—	46	46	85	51	73
知床半島全体														
Total	562	602	518	620	378	305	580	467	418	747	445	628	806	642
区域/年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
An	Aに含む									100	43	68	33	0
A	259	298	92	90	291	153	70	59	88	203	102	144	78	66
B	76	75	19	161	145	62	25	133	78	67	4	41	0	12
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F	0	36	0	10	10	0	0	0	0	0	7	1	0	4
G	0	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0		22	5
H	51	79	44	37	78	88	78	34	35	80	47	53	9	69
Total	386	497	155	307	524	303	173	226	201	364	160	239	142	156
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0
J	46	0	0	7	0	0	0	0	0	24	25	0	22	21
K	7	36	10	0	14	0	14	25	29	0	0	0	0	0
L													0	0
M													0	0
N	—	—	—	—	18	12	0	0	2	7	9	5	0	0
Total	53	36	10	7	32	12	14	25	31	31	34	52	22	21
知床半島全体														
Total	439	533	165	314	556	315	187	251	232	395	194	291	164	177



図－7) ウミウの営巣数の経年変化（1998 年～2024 年）



図－8) 2024 年ウミウの営巣数の区域別割合

1998 年に調査を行ってから 2023 年は過去最低の 164 巣であったが、本年は 177 巣と 13 巣と少し増加した。

最も営巣数が多い区域は斜里側の H 域でカモイエバ（獅子岩）の 48 巣が最も多き営

巣地だった。それに続いて羅臼側の眼鏡岩の岩礁で 21 巣だった。AN 域のウトロ漁港に隣接するオロンコ岩では 2020 年に 100 巣を確認し、2021 年の 122 巣をピークに 2022 年は 59 巣に減少し 2023 年はさらに減少し 33 巣であった。本年は、は 5 月 27 日に 5 巣で抱卵していたが、その日以後に営巣の確認はできなく抱卵途中で破棄したものと考えられる。ここでは、オジロワシが頻繁に飛来しており、その影響が大きいと考えられる。ウトロ側の H 域のタカサラウニでは 2023 年に営巣が確認できなかったが本年は 5 巣と復活していた。羅臼側の J 域の眼鏡岩では 2023 年 22 巣を確認したが本年は営巣地が消滅していた。



図ー9) カモイエバのウミウ営巣地（獅子岩）



図ー10) ウトロ側のウミウの営巣地

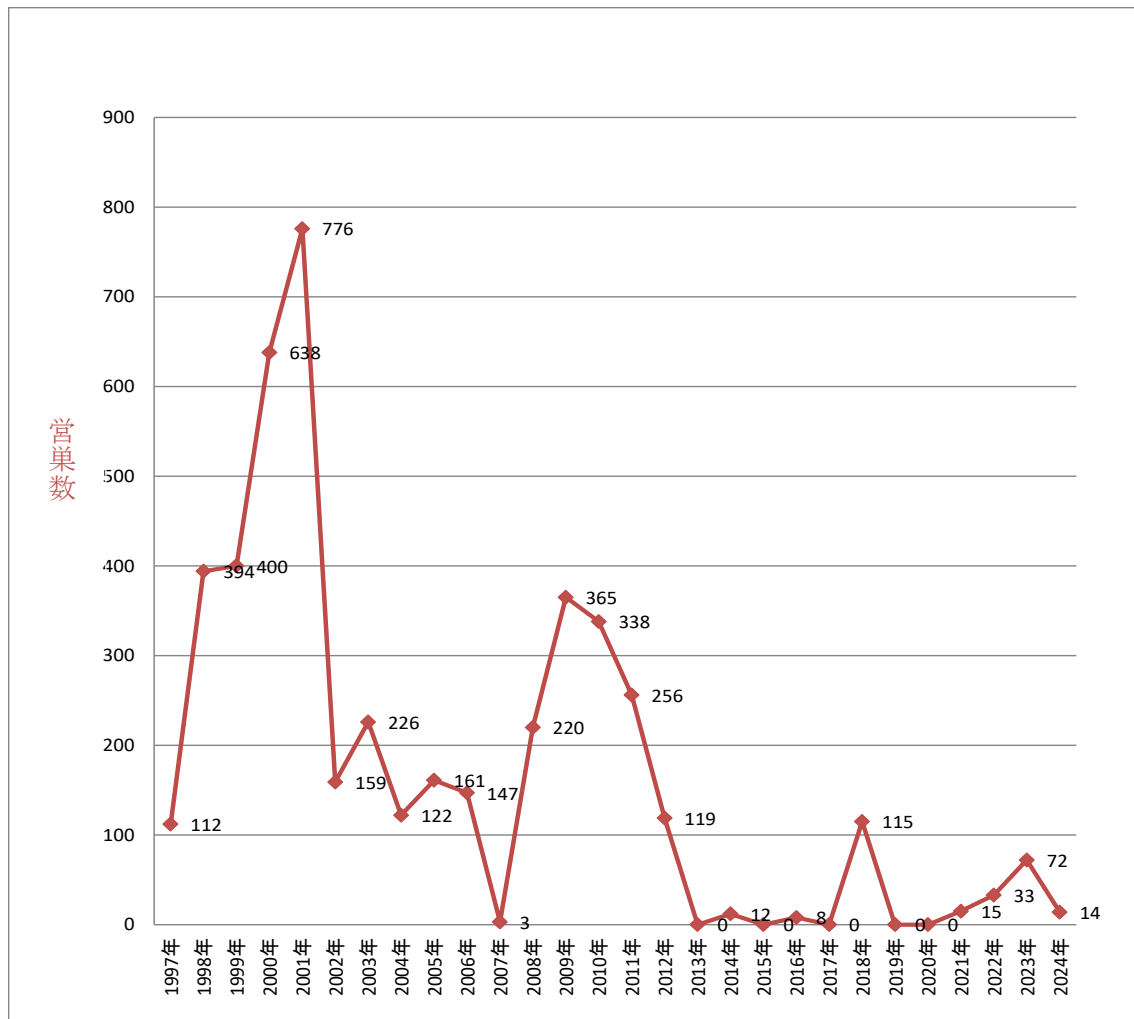
・ウミネコ

表ー3) ウミネコの営巣数の経年変化 (1997 年～2024 年)

区域/年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	
An	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	斜里町側
A	94	280	346	612	772	159	226	122	134	0	0	6	166	56	
B	18	114	54	26	4	0	0	0	27	147	3	214	199	282	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	112	394	400	638	776	159	226	122	161	147	3	220	365	338	
知床半島全体															
I	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼町側
J	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
K	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
L							0	0	0	0	0	0	0	0	
N							0	0	0	0	0	0	0	0	
M							0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	
知床半島全体															
Total	—	—	—	—	—	—	226	122	161	147	3	220	365	338	
区域/年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
An	0	0	0	0	0	0		10	0	0	0	0	0	14	斜里町側
A	0	0	0	12	0	8	0	105	0	0	0	28	41	0	
B	256	119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
E	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
F	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	256	119	0	12	0	8	0	115	0	0	0	28	41	14	
知床半島全体															
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	羅臼町側
J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	5	31	0	
K	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
L	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
Total	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	5	31	0	
知床半島全体															
	256	119	0	12	0	8	0	115	0	0	15	33	72	14	



図ー11) ウミネコの成鳥



図ー12) ウミネコの営巣数の経年変化 (1997 年～2024 年)

1997 年に初めて知床半島の A 域のフレペの滝下で営巣の確認がされた。2001 年の 776 巣をピークに減少している。その当時は、A 域のフレペの滝下と B 域の知床五湖の断崖であった。2007 年には 3 巣となり、2010 年には A 域のフレペの滝下 166 巣と知床五湖の断崖 199 巣と合計 365 巣と回復したが 2013 年には再び 0 巣となった。2018 年には 115 巣と再び回復した。2019 年と 2020 年の営巣数は 0 巣であった。2021 年は 15 巣、2022 年 33 巣を確認したがヒナの巣立ちは確認できなかった。2023 年は、フレペの滝下で 41 巣、羅臼側の J 域の眼鏡岩周辺で 31 巣の 72 巣を確認した。また、フレペの滝下では巣立ちは確認した。しかし、眼鏡岩周辺の営巣地は繁殖途中で放棄された。

2024 年は A 域の象の鼻から南の斜面で 14 巣を確認した。6 月 30 日に 1 羽の雛を確認したが巣立った雛を確認できなかった。本年はこの営巣地のみで羅臼側での営巣の確認はできなかった。ウミネコの繁殖数減少の要因はヒグマやオジロワシの捕食圧・餌資源の減少などが考えられる。

6. 知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループの資料案の作成

「知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループ」において、「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画」に位置付けられているモニタリング項目 No.6「ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査」についての2024年度の調査結果をまとめ、提出した。以下に提出した資料を掲載する。

2024 年知床半島における海鳥の繁殖状況

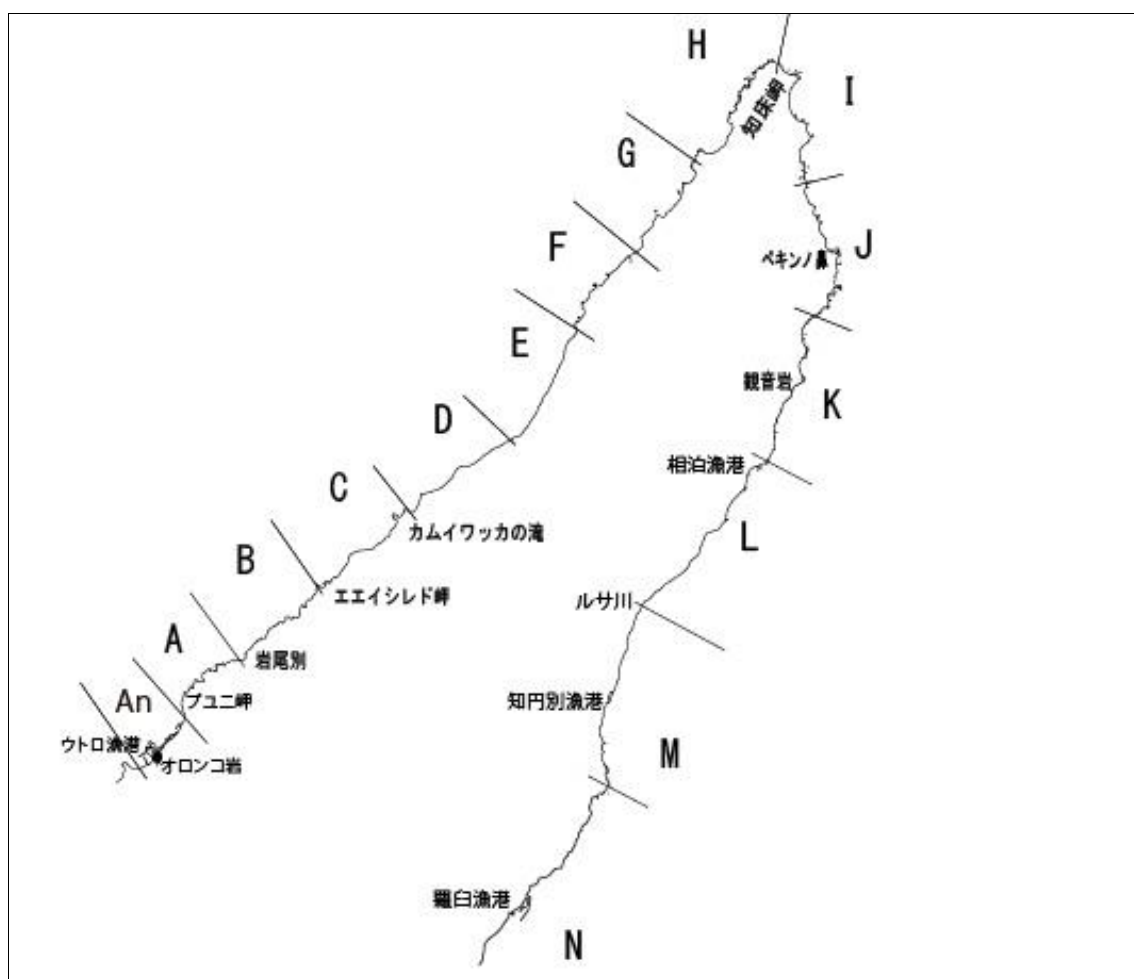
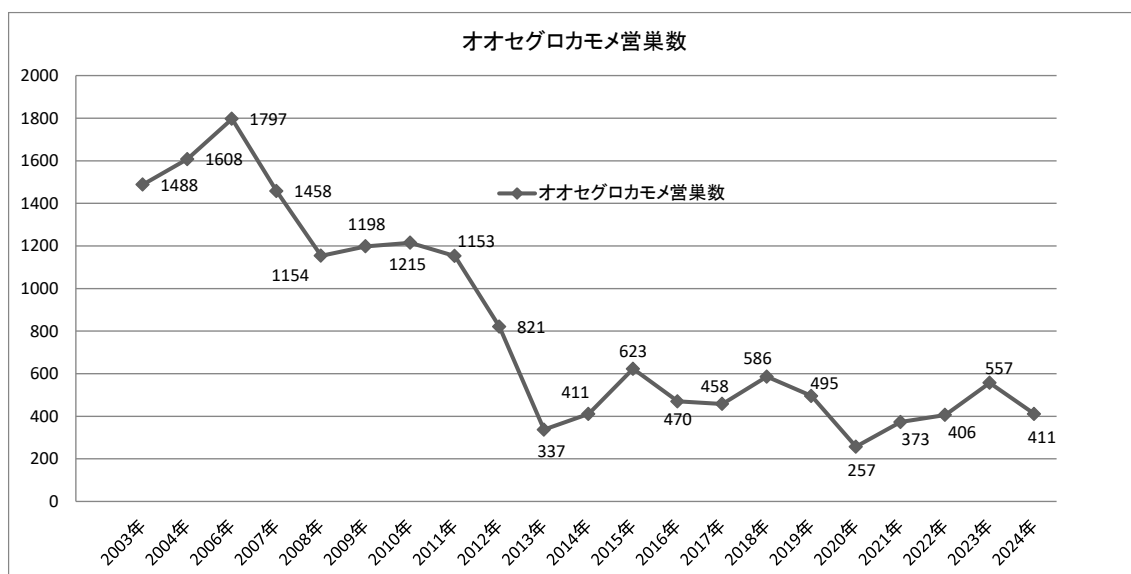
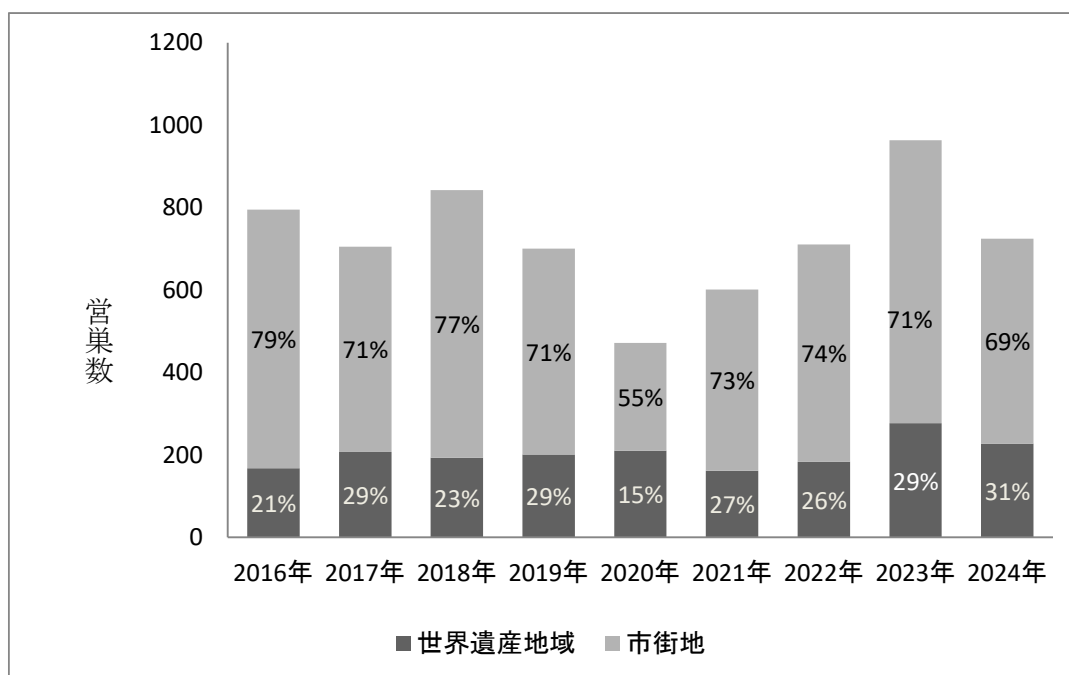


図 - 1) 知床半島調査地区図

・オオセグロカモメの繁殖状況



図－2) オオセグロカモメの営巣数の経年変化（2003 年～2024 年）



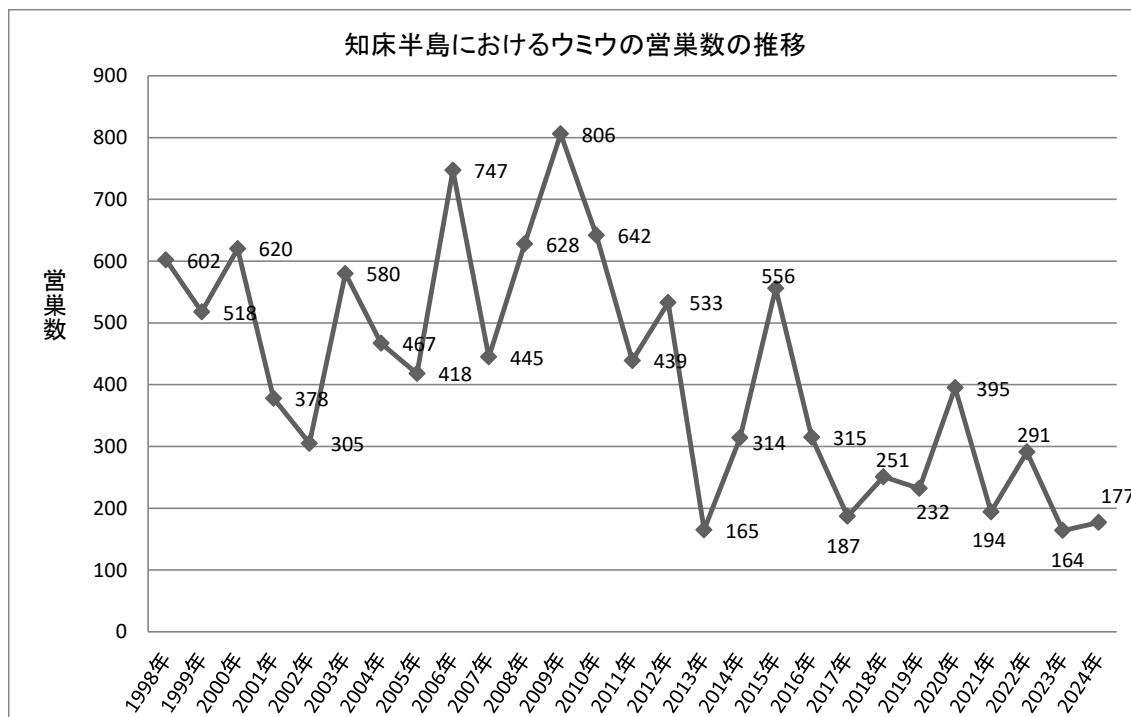
図－3) オオセグロカモメ営巣数の羅臼町と斜里町ウトロの市街地と世界遺産地域との割合（2016 年～2024 年）

1997 年から斜里町側（ウトロ漁港から知床岬）の調査を開始した。1999 年は斜里町側の営巣地のみで 1709 巣を確認した。2003 年から知床半島全体で営巣数調査を開始した。2003 年から 2024 年までの間で、最も営巣数が多かった年は、2006 年の 1797 巣であった。（環境

省の調査は2019年より)

2020年は調査開始以来最も少ない471巣であり、2021年661巣・2022年710巣・2023年963巣と回復傾向であったが2024年は724巣と減少した

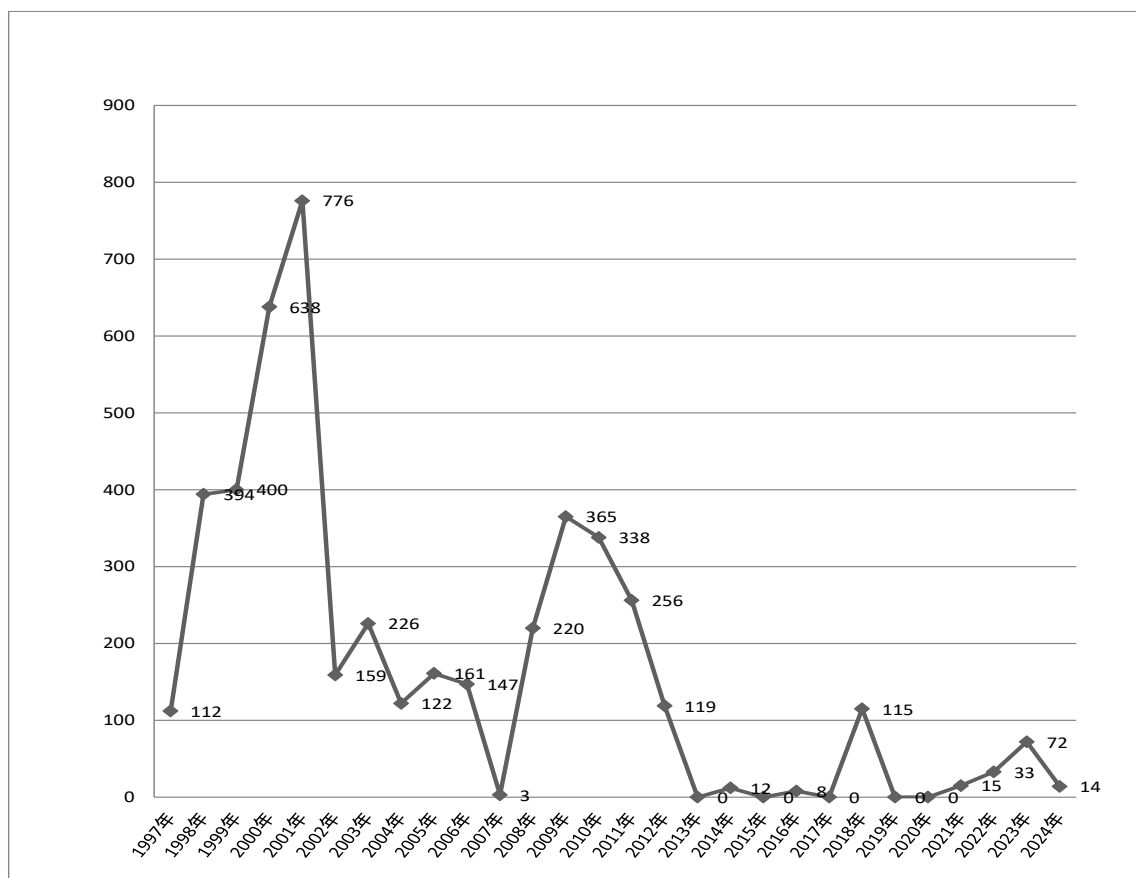
・ウミウの繁殖状況



図ー7) ウミウの営巣数の経年変化 (1998年～2024年)

1998年に調査を行ってから2023年は過去最低の164巣であったが、本年は177巣と13巣と少し増加した。

・ウミネコ繁殖状況



図ー8) ウミネコの営巣数の経年変化（1997年～2024年）

1997年に初めて知床半島のA域のフレペの滝下で営巣の確認がされた。2001年の776巣をピークに減少している。2024年はA域の象の鼻から南の斜面で14巣を確認した。6月30日に1羽の雛を確認したが巣立った雛を確認できなかった。本年はこの営巣地のみで羅臼側での営巣の確認はできなかった。ウミネコの繁殖数減少の要因はヒグマやオジロワシの捕食圧・餌資源の減少などが考えられる。

・ケイマフリの生息状況

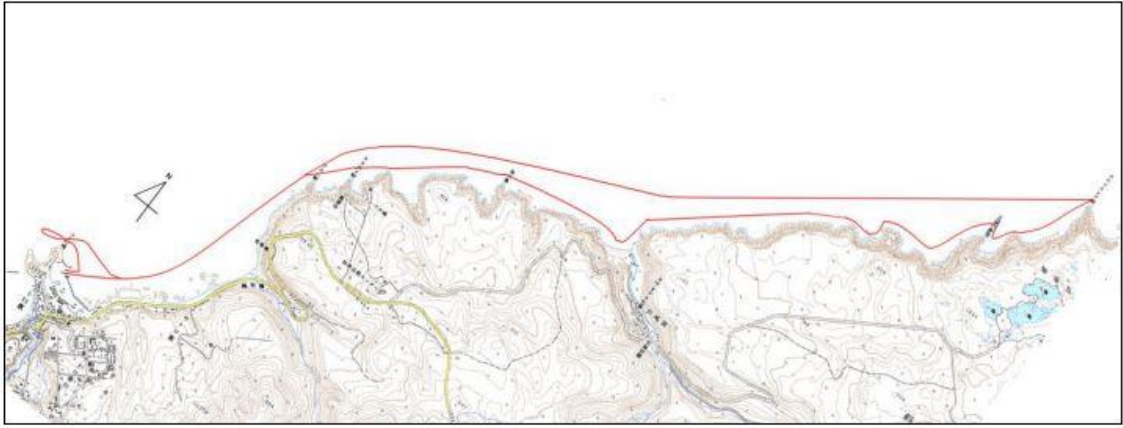


図-9) ケイマフリ個体数モニタリングの航路（国土地理院2万5千の1地形図を加工）

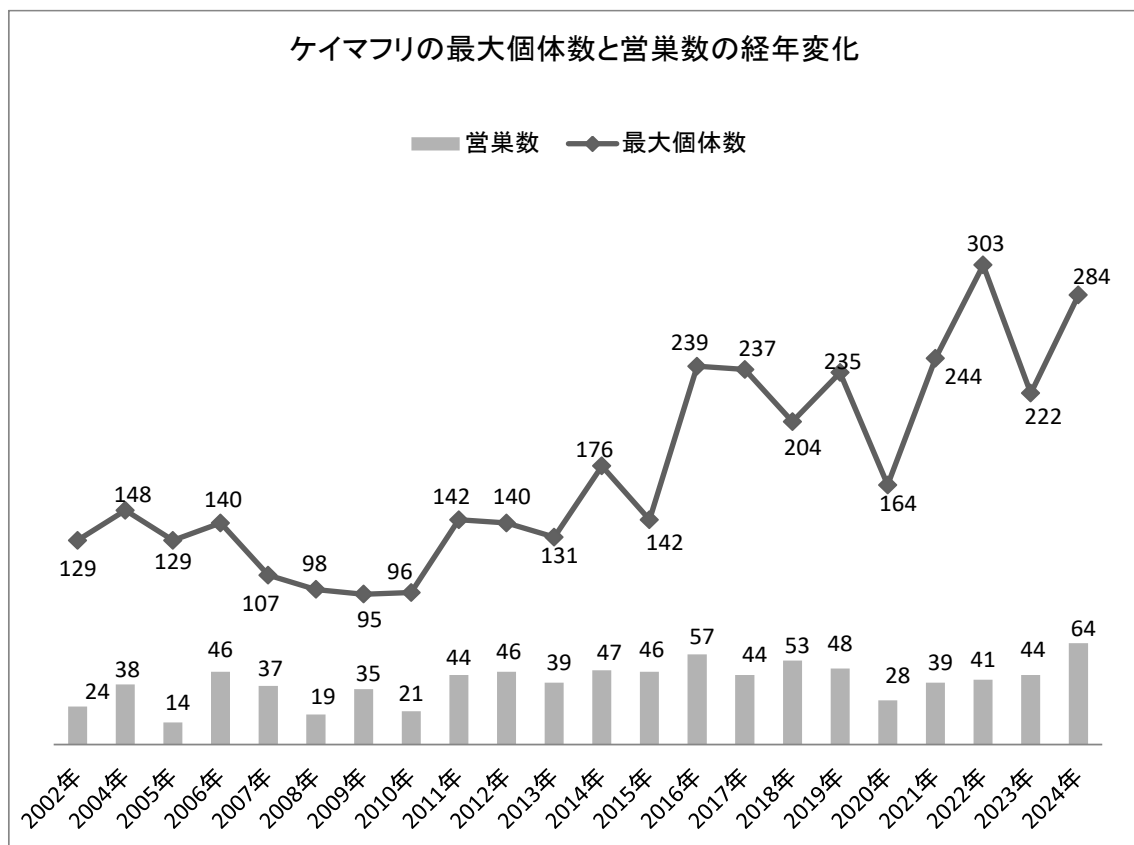


図-10) ケイマフリの最高個体数と営巣数の経年変化（2002年～2024年）

ケイマフリ餌構成調査

ケイマフリ生息状況調査の調査中に確認した、育雛期に巣内のヒナに持ち帰るために嘴に魚類をくわえている個体を観察し餌構成調査を行った。

表-1) ケイマフリ餌構成調査結果

No	月日	イカナゴ	カレイ類	カタクチイワシ	不明	合計
1	6月15日	1			1	2
2	6月18日	1				1
3	6月21日	1				1
4	6月28日	4				4
5	6月30日	3	1			4
6	7月7日	7	1			8
7	7月14日	6				6
8	7月21日	7				7
9	7月23日	5				5
10	7月28日			3		3
		35	2	3	1	41

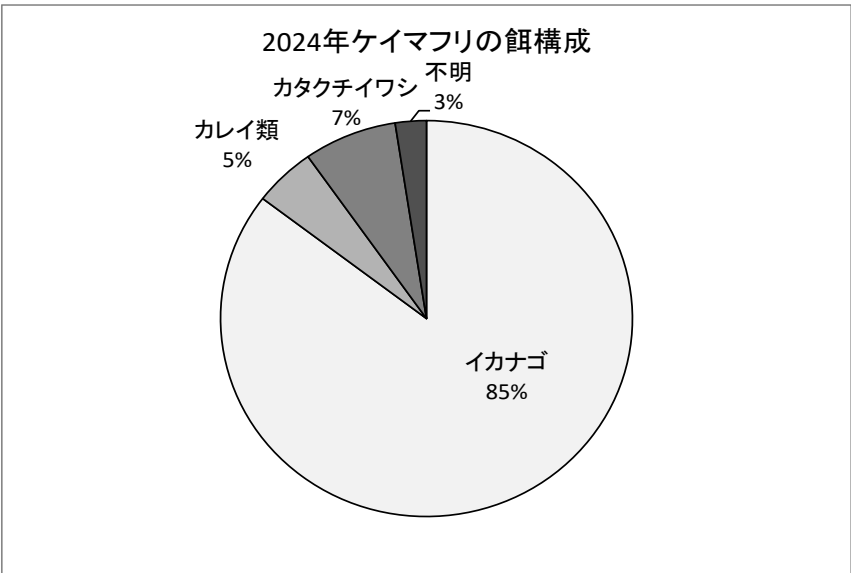
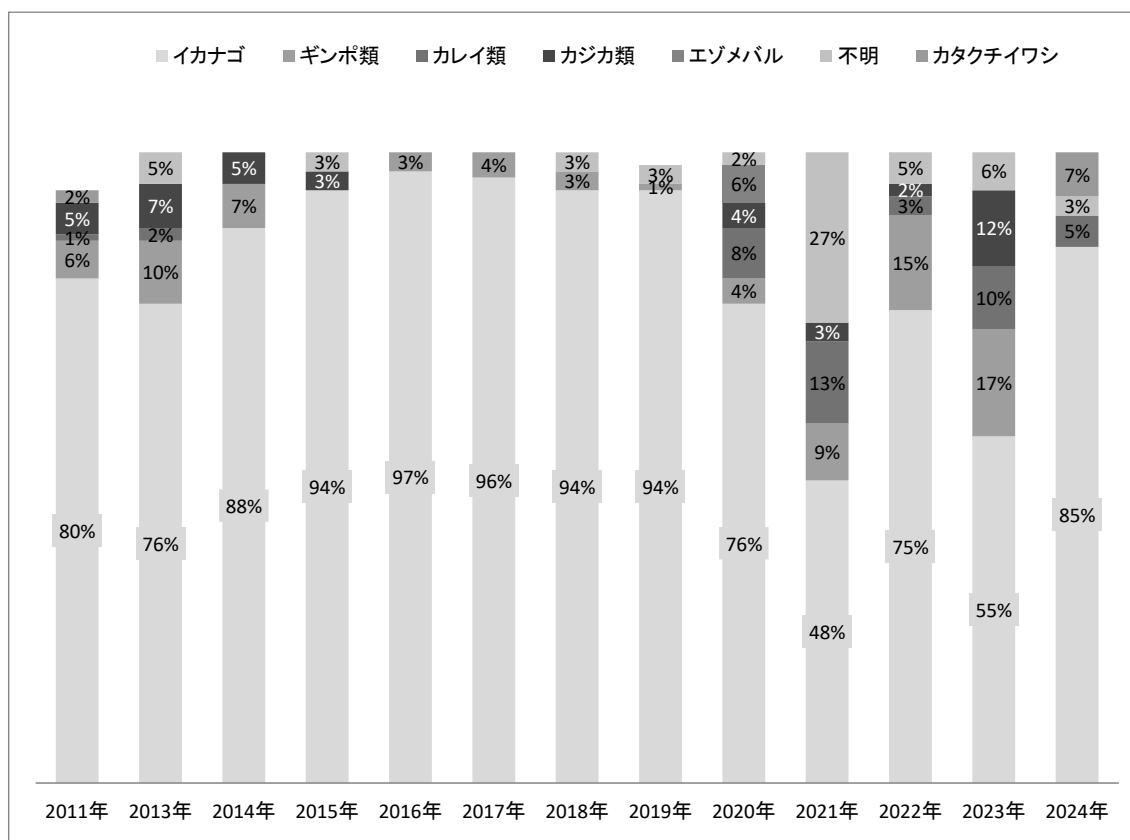


図-11) 2024 年ケイマフリの餌構成

2024 年のケイマフリがヒナに持ち帰る餌を調査した結果、イカナゴ：35 例（85%）カタクチイワシ 3 例（7%）・カレイ類 2 例（5%）であった。これまで、イカナゴについて捕食していたギンポ類が今回は観察されなく、新たにカタクチイワシが 3 例観察された。2023 年はイカナゴ 55%でギンポ類が 17%であった。2024 年はイカナゴの生息数はやや回復し、ギ

ンポ類の生息数は減少した可能性がある。



図ー12) ケイマフリの餌資源の経年変化

2022 年が過去最高の 303 羽から 2023 年 222 羽と減少したが 2024 年は 284 羽と回復した。営巣数も過去最高の 64 巣を確認した。ケイマフリの営巣地は崖の穴や隙間に営巣するため全数を確認するのは困難であるため単に比較はできない。近縁種のウミバトでは 1 日平均 16 回雛に給餌するという研究結果があり、観察時間がタイミングに合致すれば確認数が前後する可能性もある。

知床半島での雛に給餌する餌構成は、主食のイカナゴが 85%と前年の 55%から回復した。これまで、イカナゴの次に給餌していたギンポ類の確認がなかった。また、育雛期の後半にカタクチイワシが 3 例確認された。2011 年以来の観察例だった。

本年は、雛の巣立ちが 7 月 23 日に観察することができた。本来、ケイマフリの巣成ちは夕方から夜間の暗い時間にすが日中に観察される例は少ない。天敵に捕食されるリスクがかなり高いと思われる。また、観察された個体は警戒心が薄く調査者が近づいても逃げなかった。巣立ちした雛は飛翔力が高いと言われているが、観察された個体は衰弱しているようにも感じられた。